

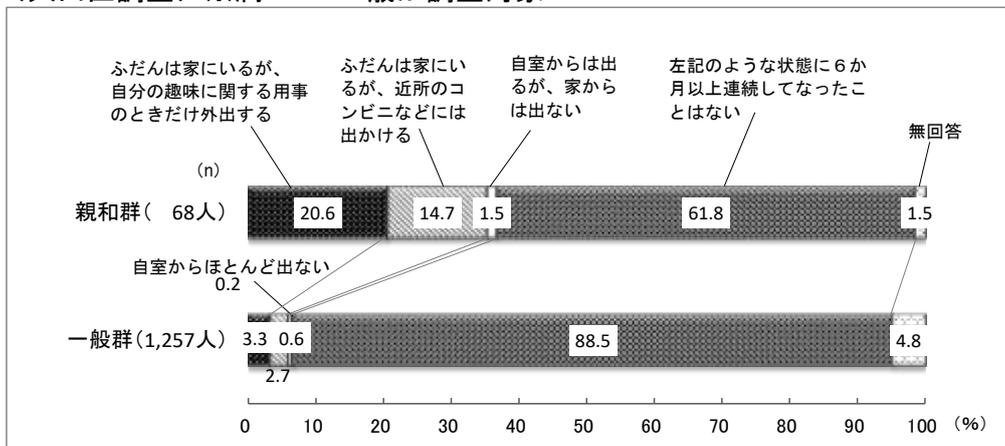
■ 過去の生活について

Q 3 3 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。(単一回答)

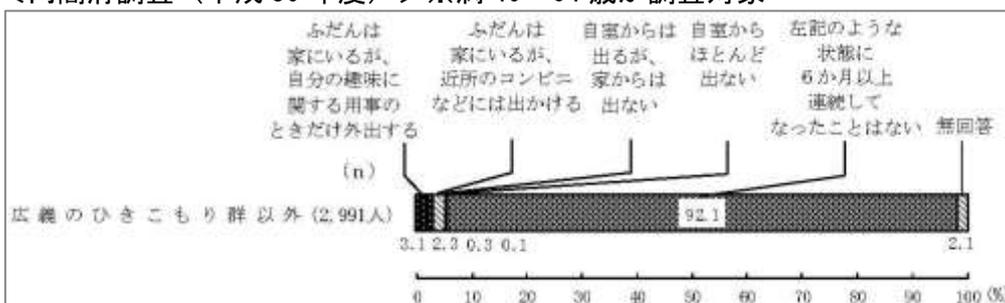
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は該当者なし。
- ・親和群は「左記のような状態に6ヶ月以上連続してなったことはない」が61.8%となっている。
- ・大田区の親和群では、内閣府調査（平成27年度）と比べて、外出機会が限定的だった方の割合は高い傾向にある。

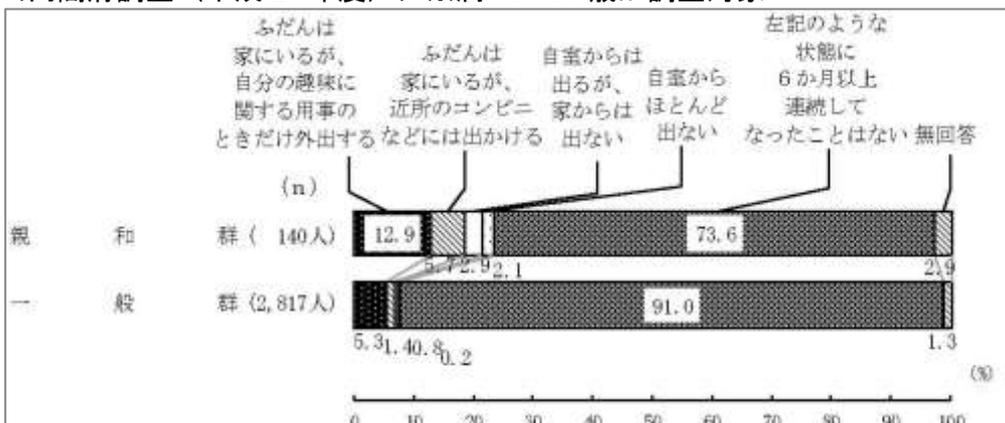
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象

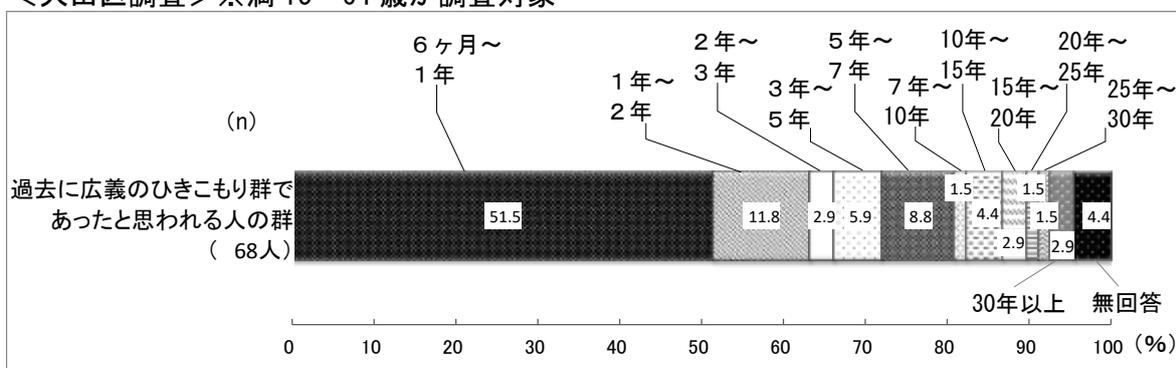


Q 3 4 その状態はどれくらい続きましたか。(単一回答)

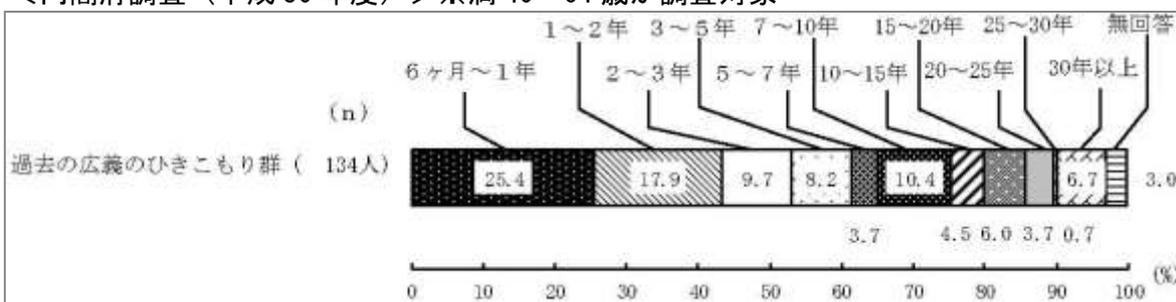
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（以下、「過去の広義のひきこもり群」という。）は「6ヶ月～1年」が51.5%、「1年～2年」が11.8%となっている。
- 内閣府調査（平成 30・27 年度）の過去の広義のひきこもり群は「6ヶ月～1年」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と比べて、「1年未満」が5割以上を占めており短期間の傾向にある。

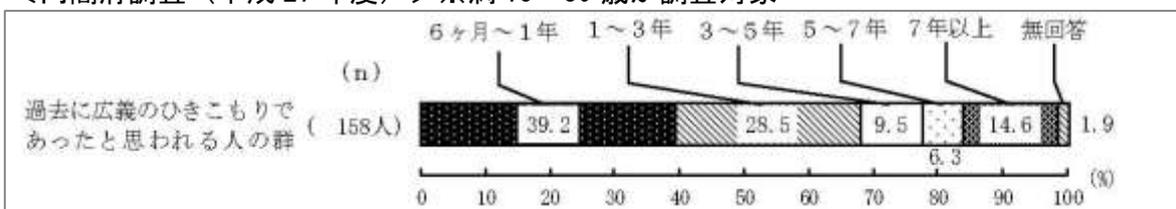
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象

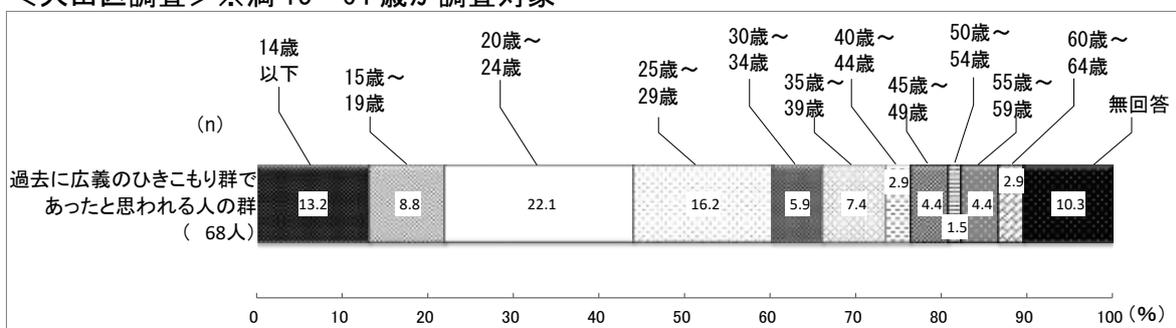


Q 3 5 初めてその状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

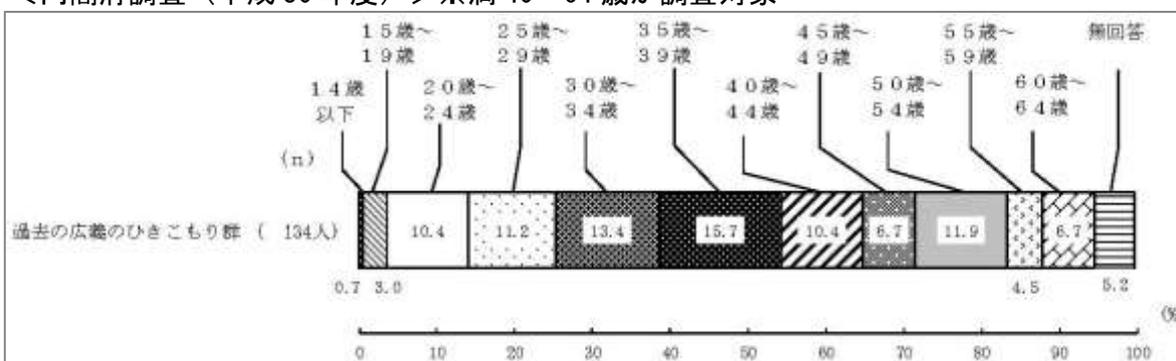
※Q 2 1 くだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去の広義のひきこもり群は「20歳～24歳」が22.1%、「25歳～29歳」が16.2%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）の過去の広義のひきこもり群は「35歳～39歳」が、内閣府調査（平成27年度）では「15歳～19歳」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様に、30歳未満の割合が高く6割を占めており、過去に外出頻度が限定的になったきっかけが若年の時期にあったことがうかがえる。

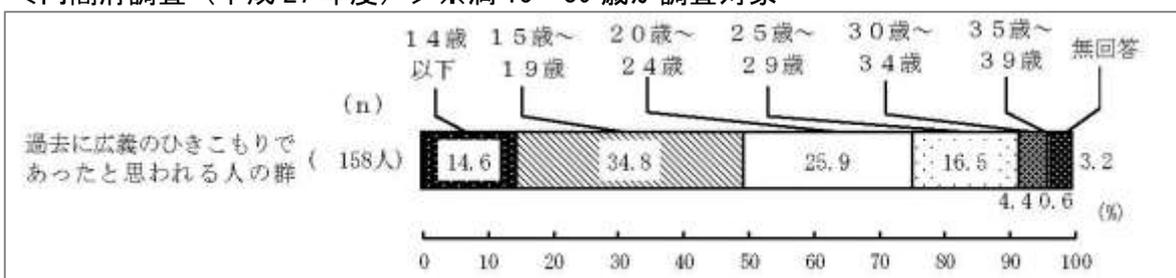
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

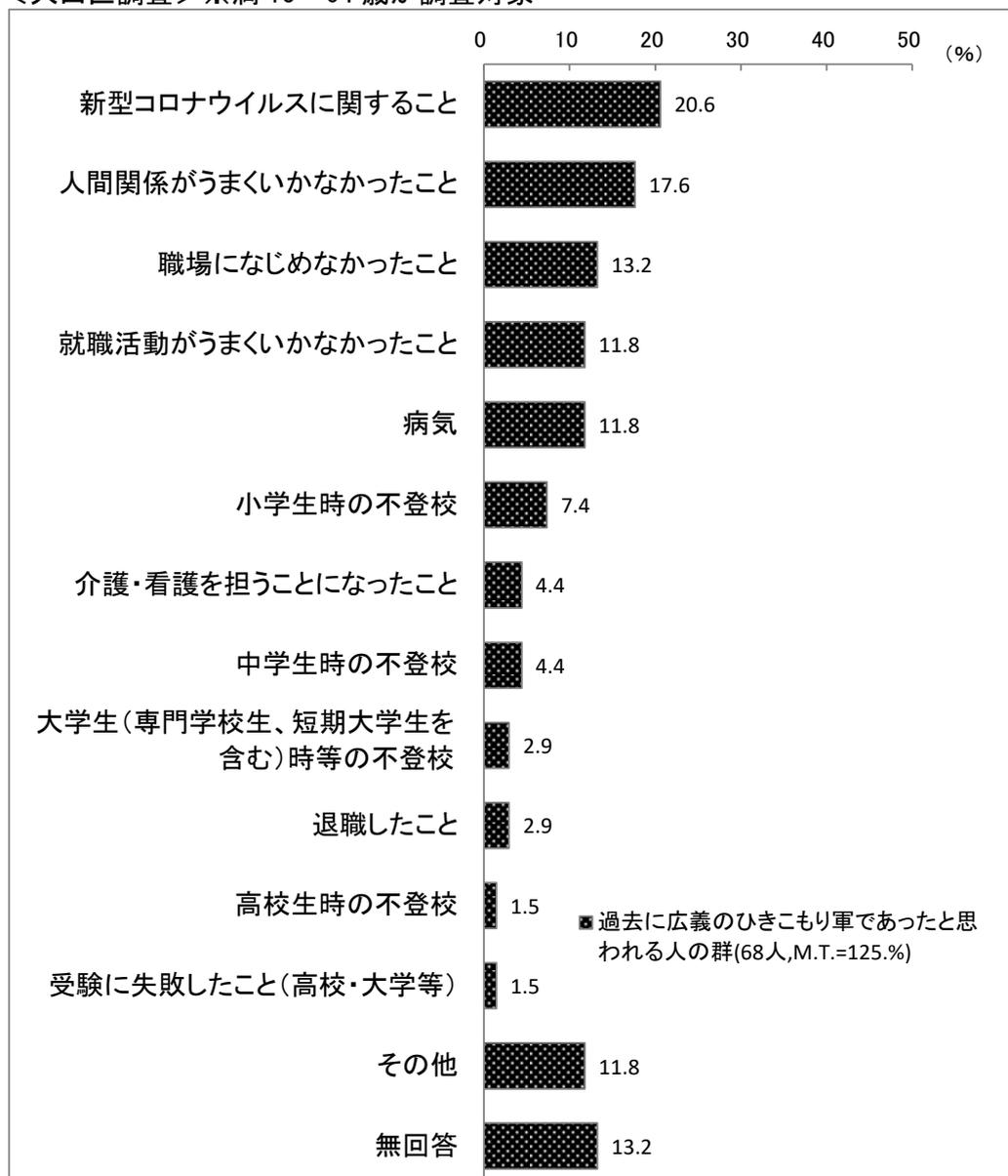


Q 3 6 その状態になったきっかけは何でしたか。(複数回答)

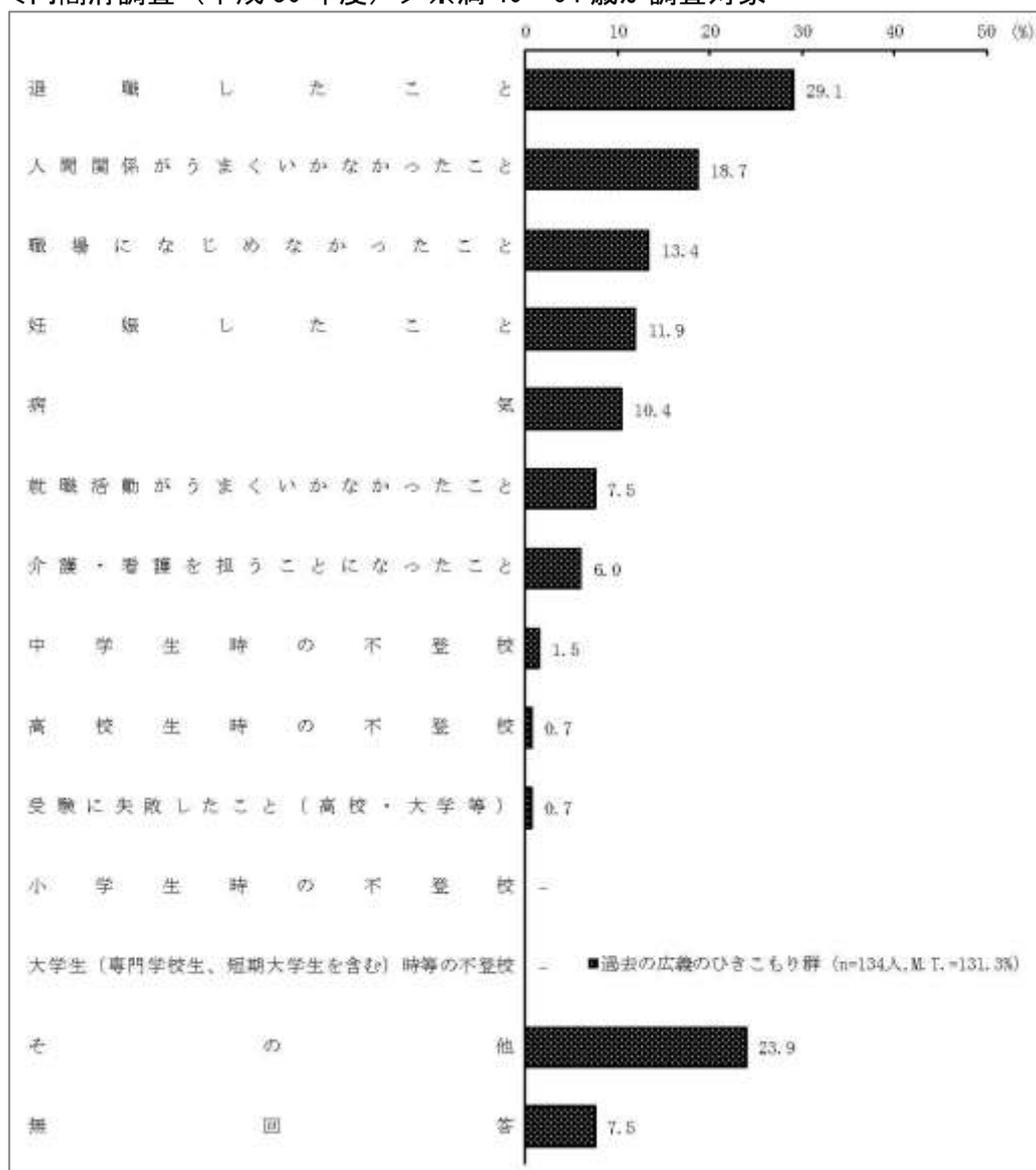
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去の広義のひきこもり群は「新型コロナウイルスに関すること」が20.6%、「人間関係がうまくいかなかったこと」が17.6%となっている。また、不登校（小学生・中学生・高校生・大学生時）の割合が合わせて16.2%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）の過去の広義のひきこもり群は「退職したこと」が、内閣府調査（平成27年度）では「不登校（小学校・中学校・高校）」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30年度）と比べて「退職したこと」の割合は低く、新型コロナウイルスの影響を除くと、人間関係や不登校等がきっかけとなっていることがうかがえる。

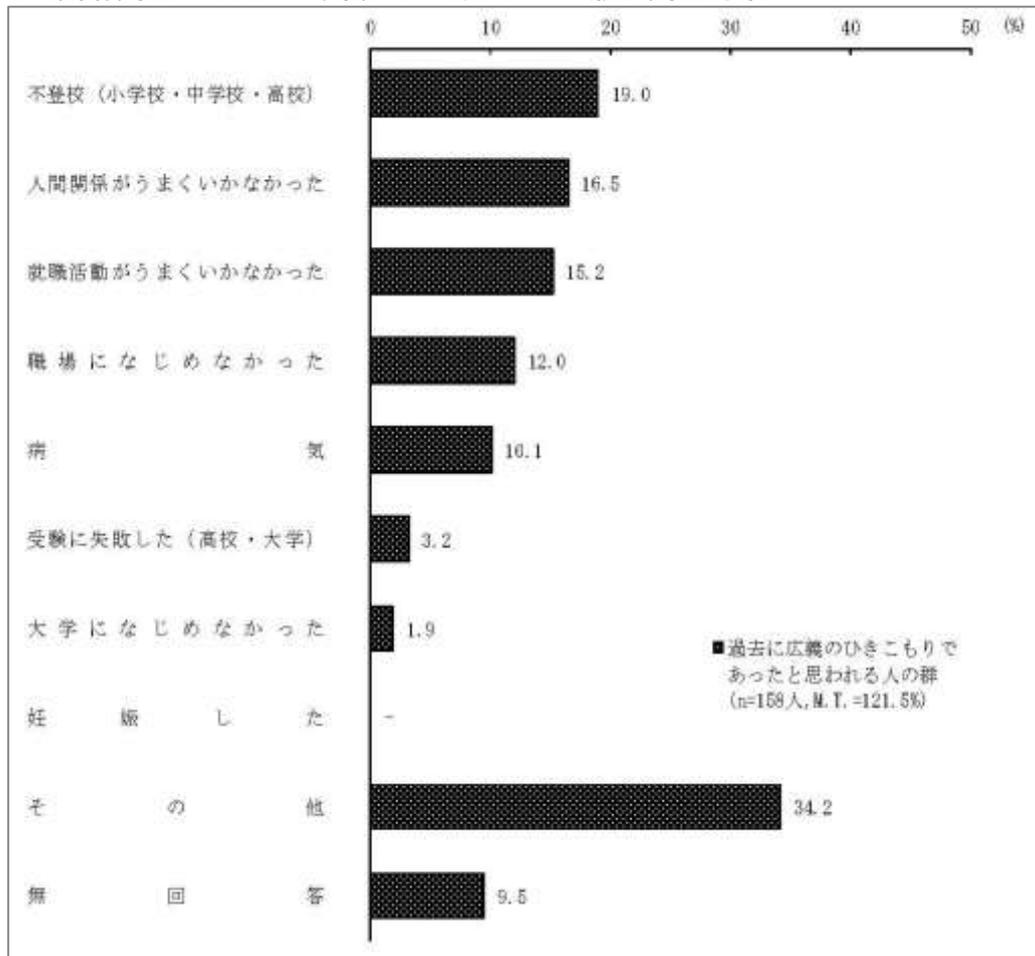
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



Q37 その状態から、Q21で回答した現在の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思
いますか。ご自由にお書きください。

※Q21ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人
づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q33過去の外出状況に関する設問
で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方の
み回答

- ・改善に役立ったこと、きっかけとして、就職・仕事との回答が多かった。また、趣味・余暇活
動や周囲とのコミュニケーションなど、きっかけは多岐にわたっている。

<大田区調査>※満15～64歳が調査対象

記述概要		回答数
<改善のきっかけ、 役立ったこと>	就職・仕事	15
	趣味・余暇活動	5
	周囲とのコミュニケーション	4
	通院	3
	目標やスキル向上	2
	健康への取組	2
	周囲の助け・サポート	1
<外出しない状態に なったきっかけを 書いている人>	新型コロナウイルス感染症	3
	仕事の影響	3
その他		11
		49

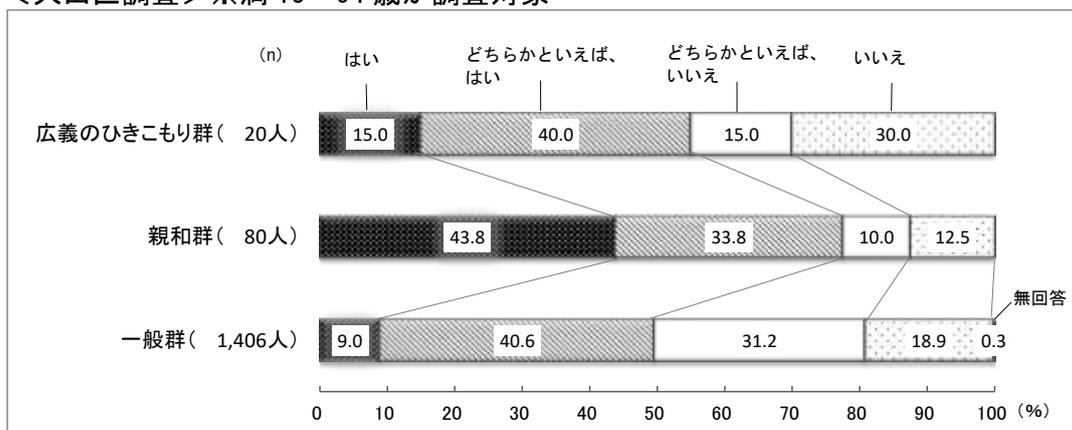
■ ふだんの意識や態度について

Q38 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○をつけてください。(単一回答)

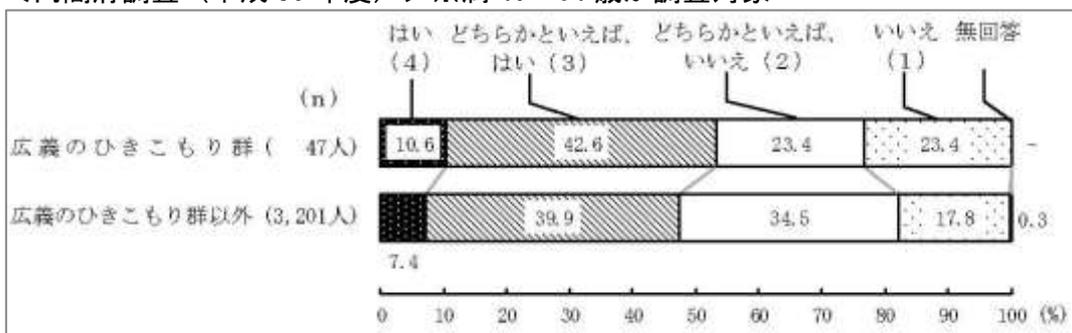
(1) 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が40.0%、「いいえ」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査(平成30年度)と比べて大きな差はみられない。

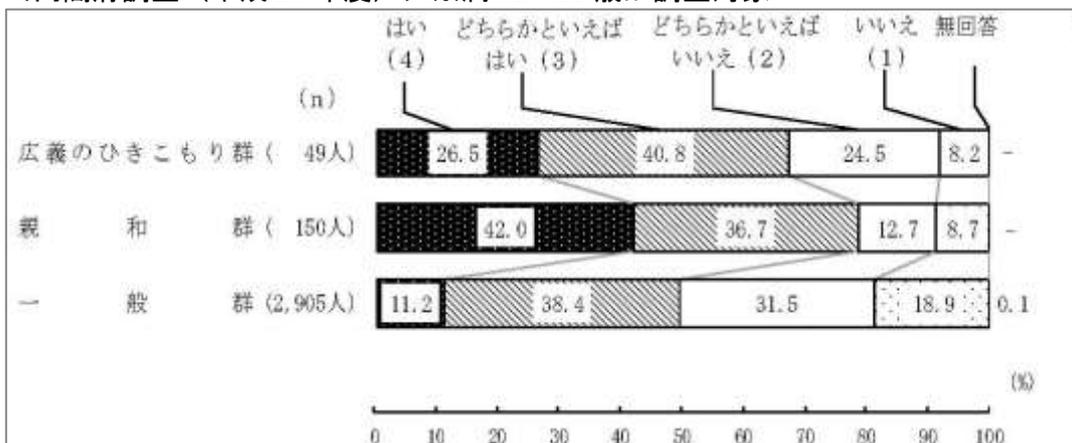
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査(平成30年度)> ※満40~64歳が調査対象



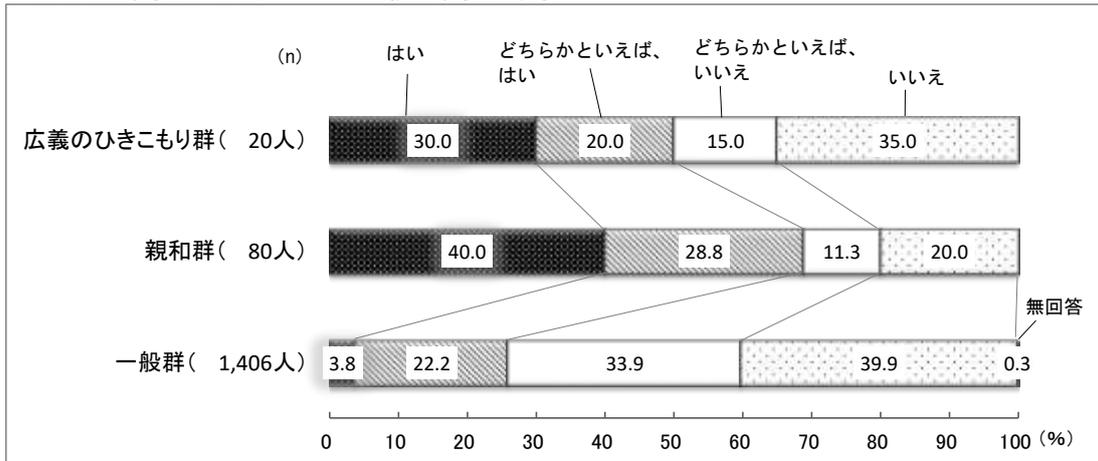
<内閣府調査(平成27年度)> ※満15~39歳が調査対象



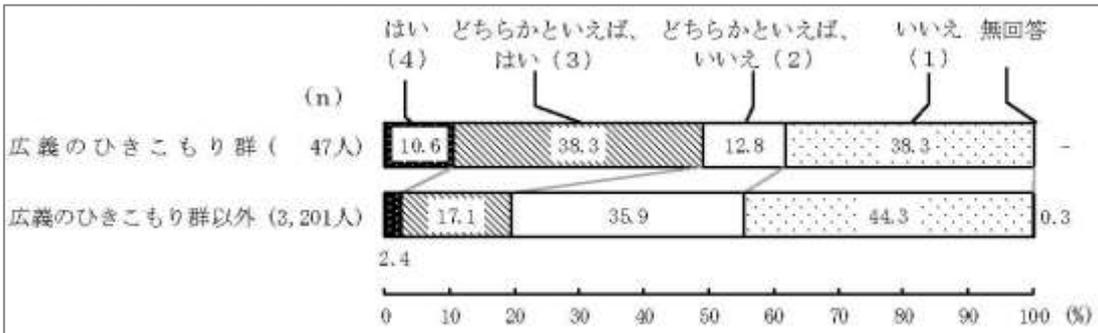
(2) 人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる

- 大田区のひきこもり群は「いいえ」が35.0%、「はい」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」「いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「はい」の割合が高く、対人緊張や不安が強い傾向にある。

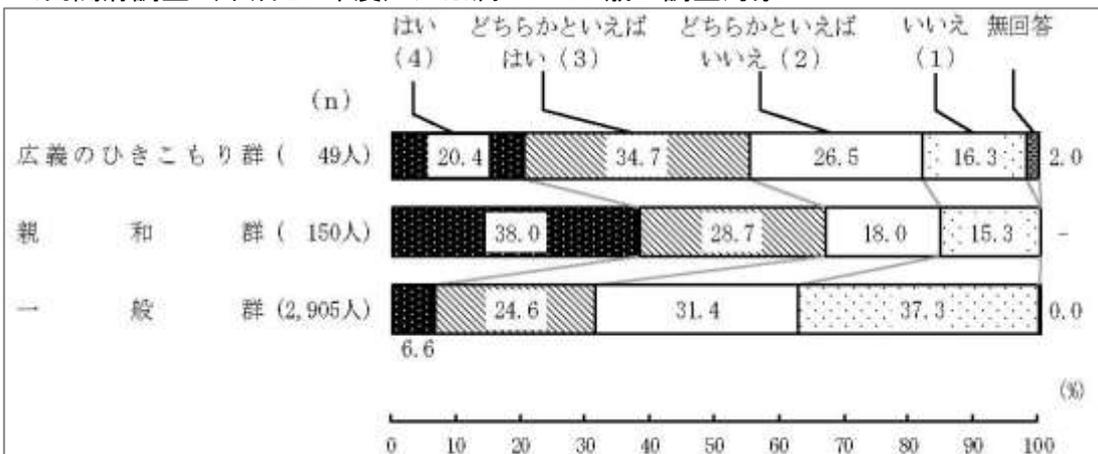
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



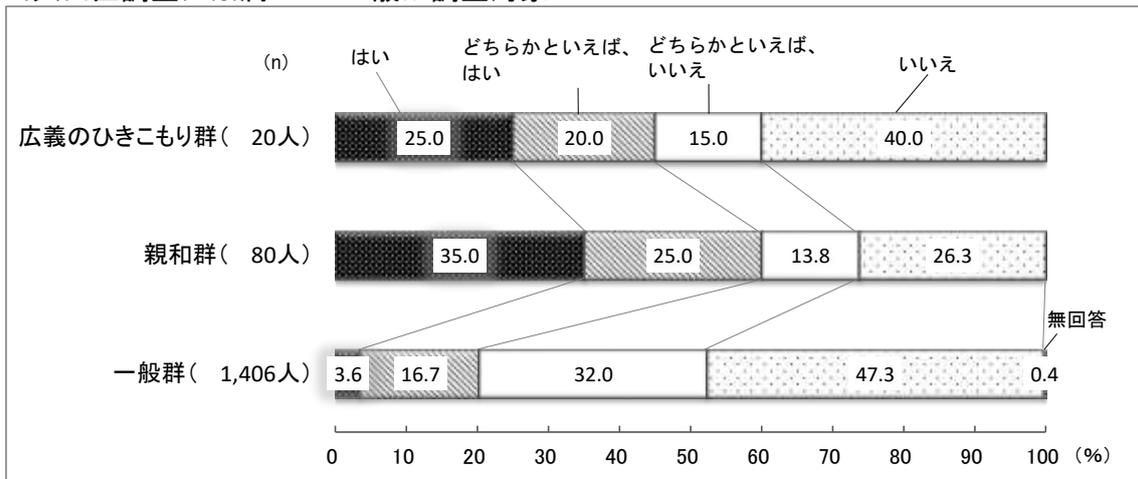
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



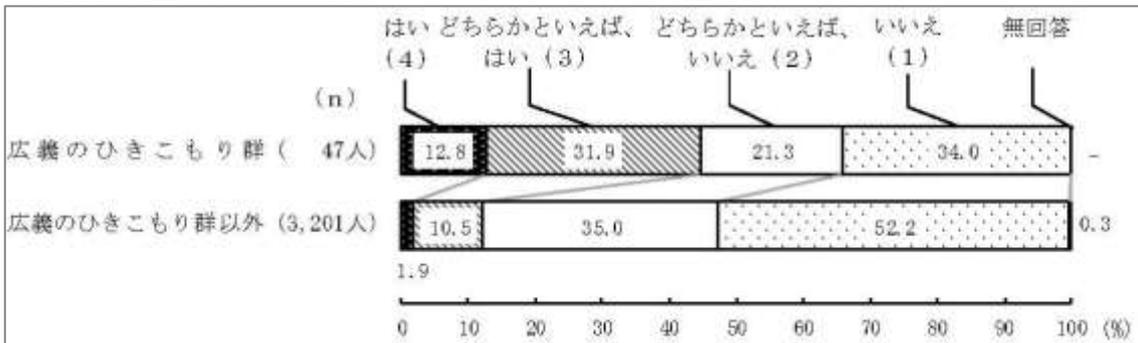
(3) 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が40.0%、「はい」が25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「はい」の割合が高く、対人緊張や不安が強い傾向にある。

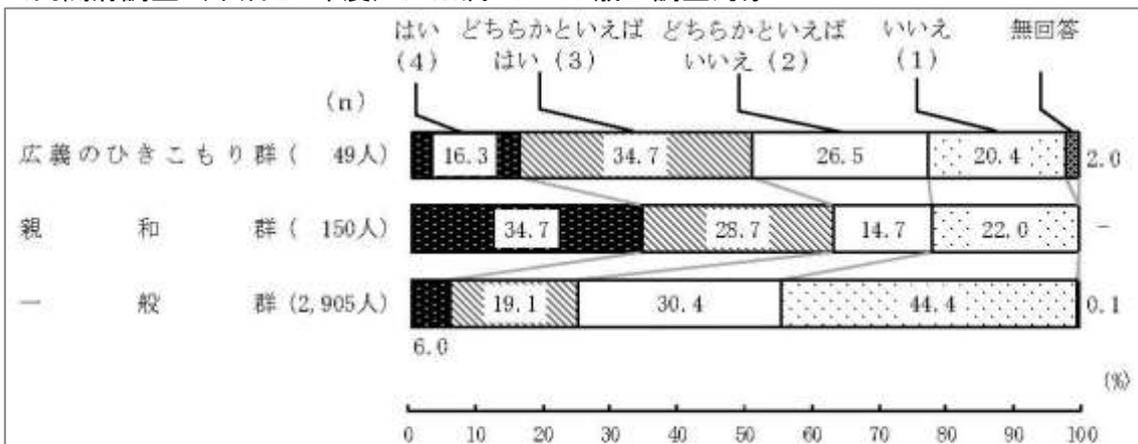
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



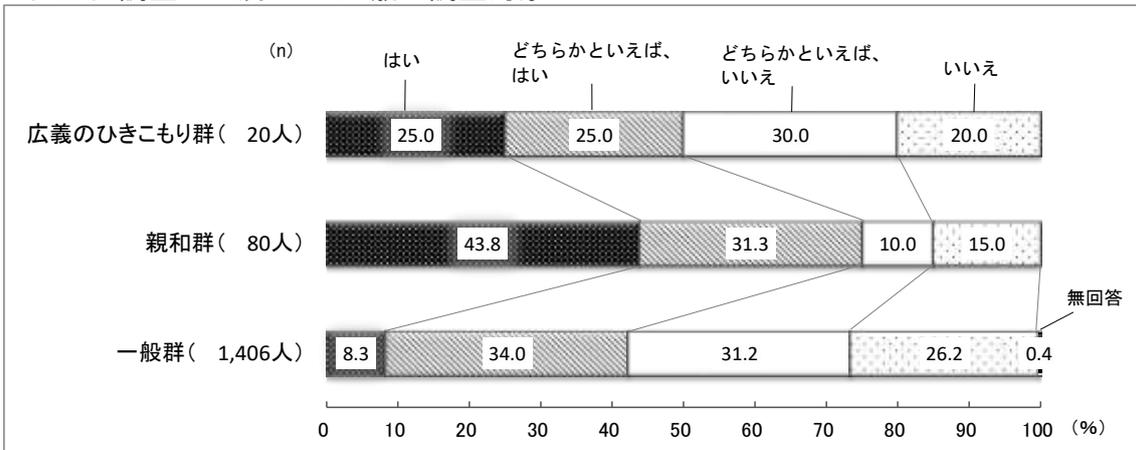
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



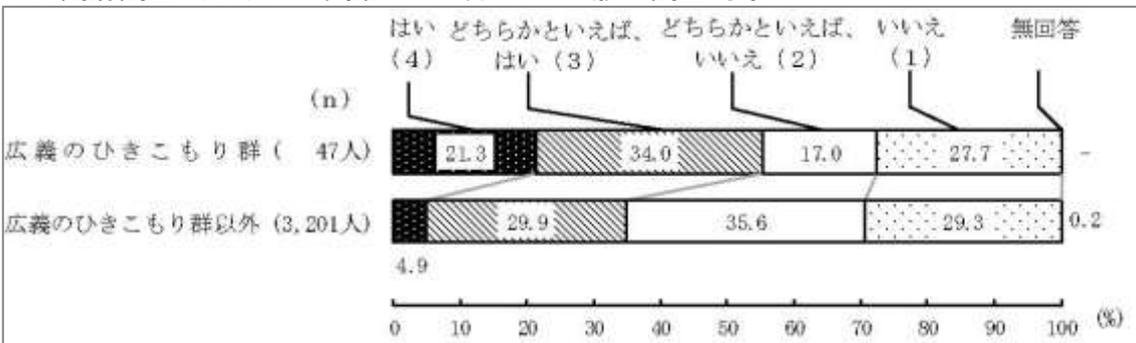
(4) 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」が 30.0%、「はい」「どちらかといえば、はい」がそれぞれ 25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成 27 年度）では「どちらかといえば、いいえ」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査（平成 30・27 年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。

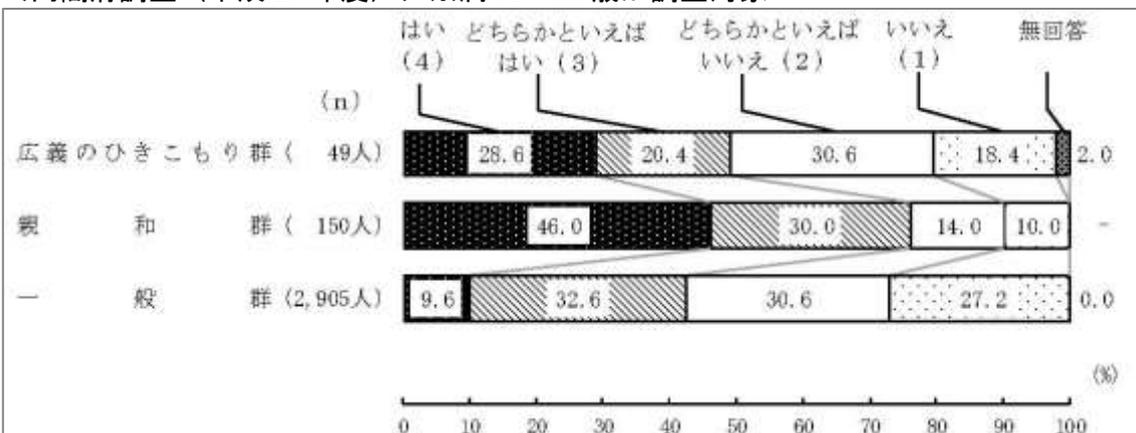
<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



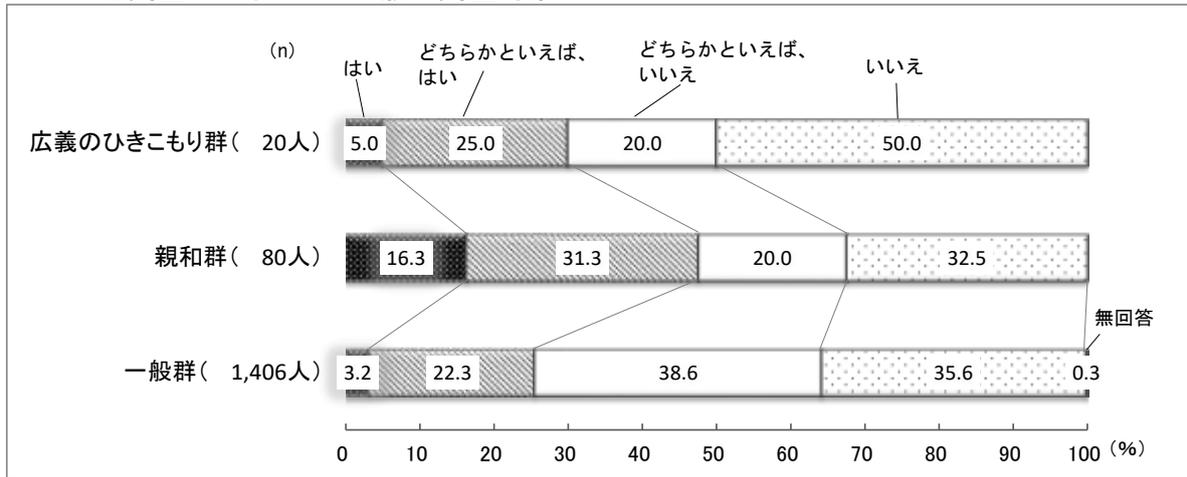
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



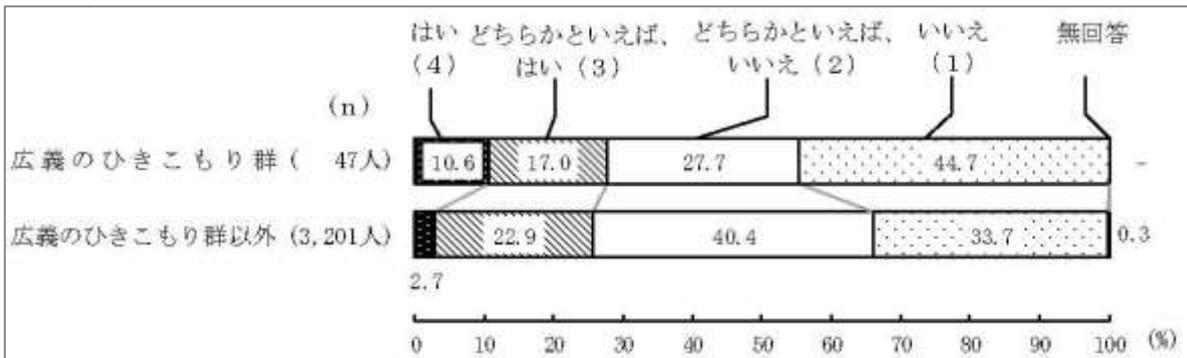
(5) 大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が50.0%、「どちらかといえば、はい」が25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられない。

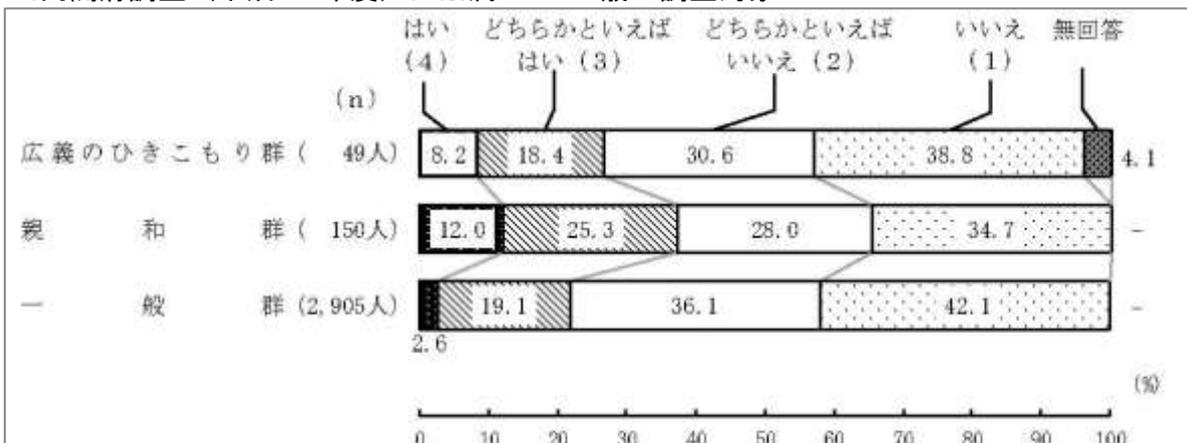
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



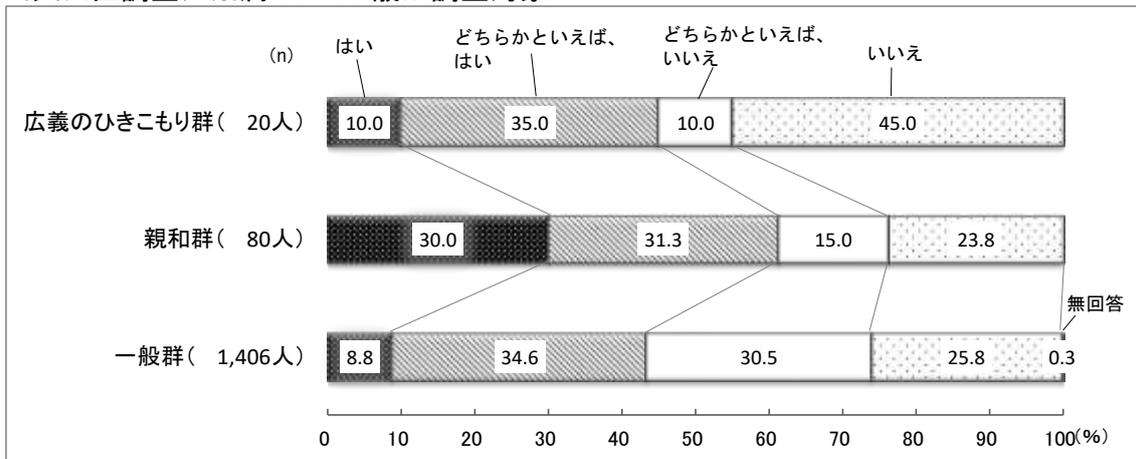
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



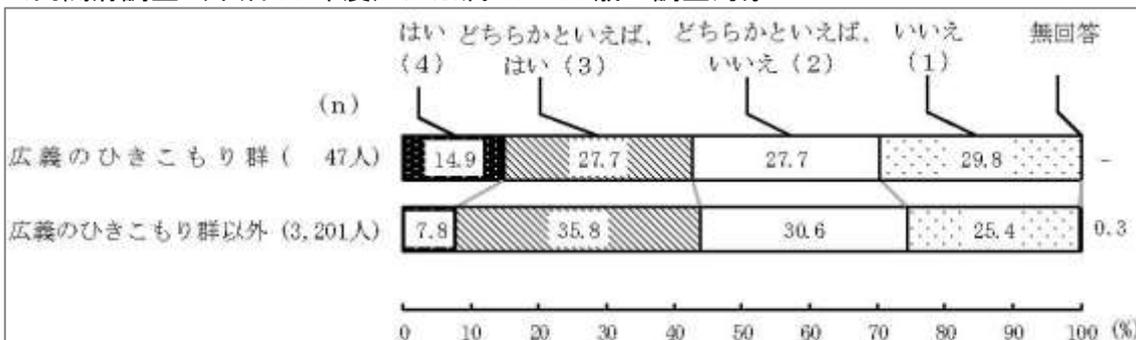
(6) 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が45.0%、「どちらかといえば、はい」が35.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、いいえ」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。

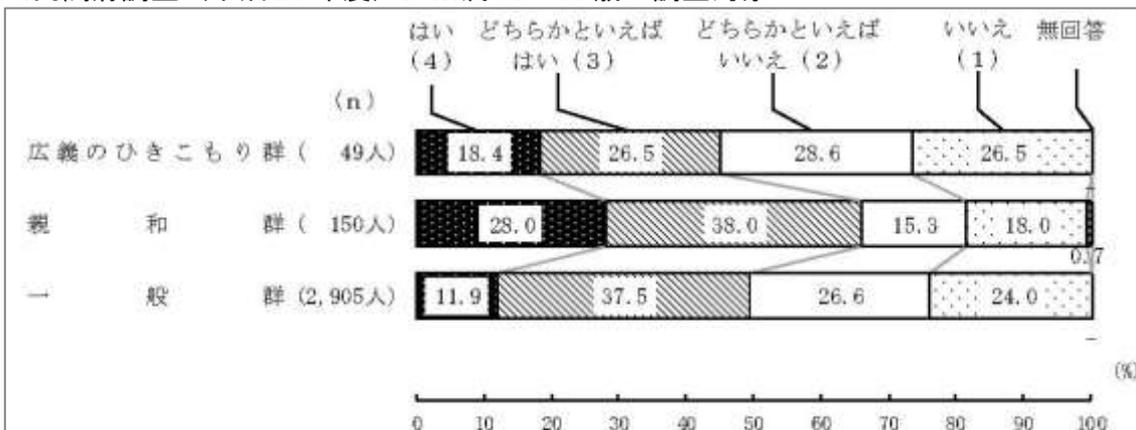
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



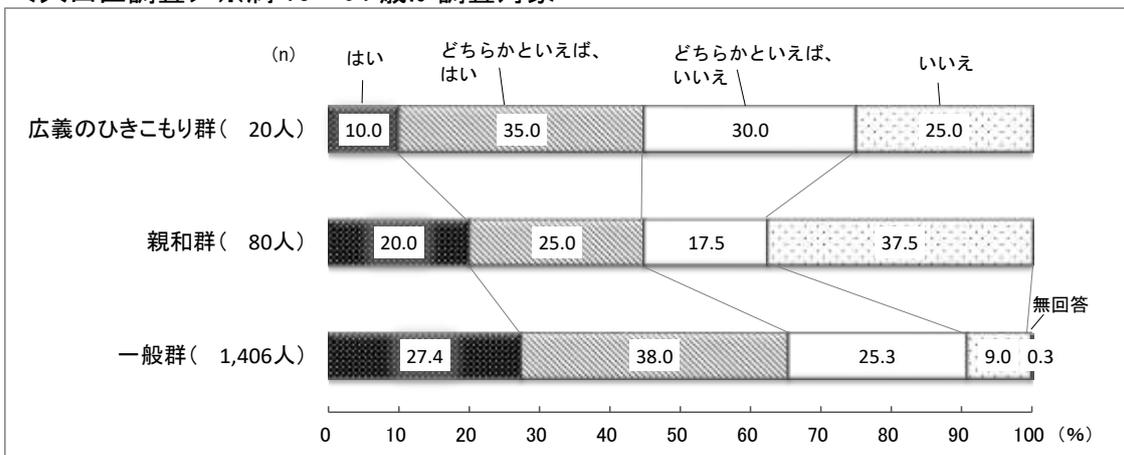
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



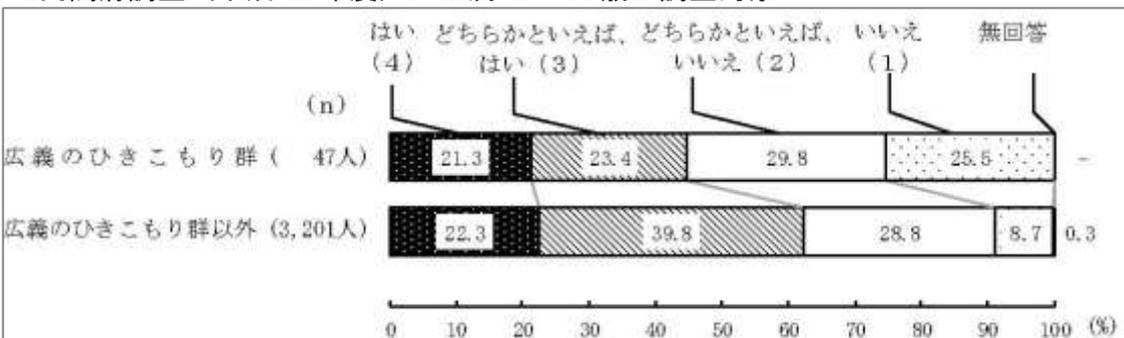
(7) 初対面の人とすぐに会話できる自信がある

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が35.0%、「どちらかといえば、いいえ」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、内閣府調査（平成30年度）と比べて大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」の割合が高く、対人関係を築くことを苦手と感じていることがうかがえる。

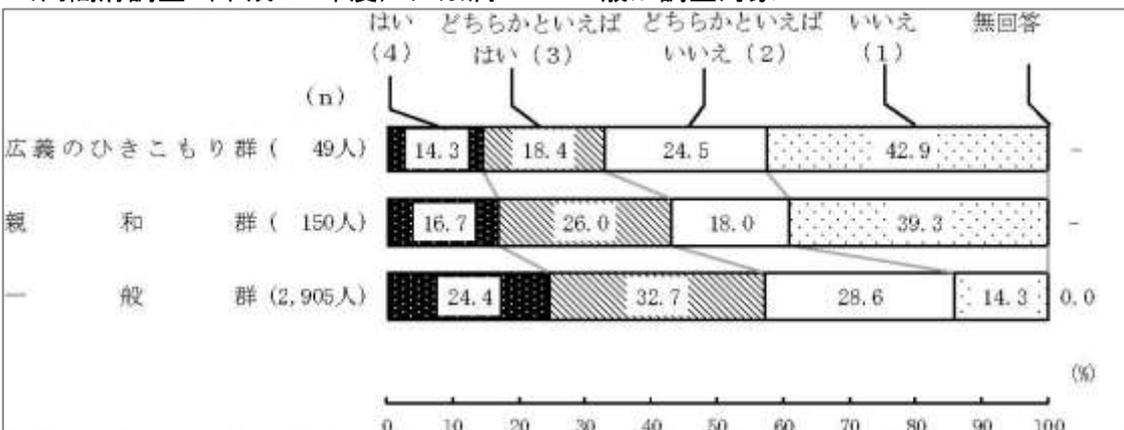
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



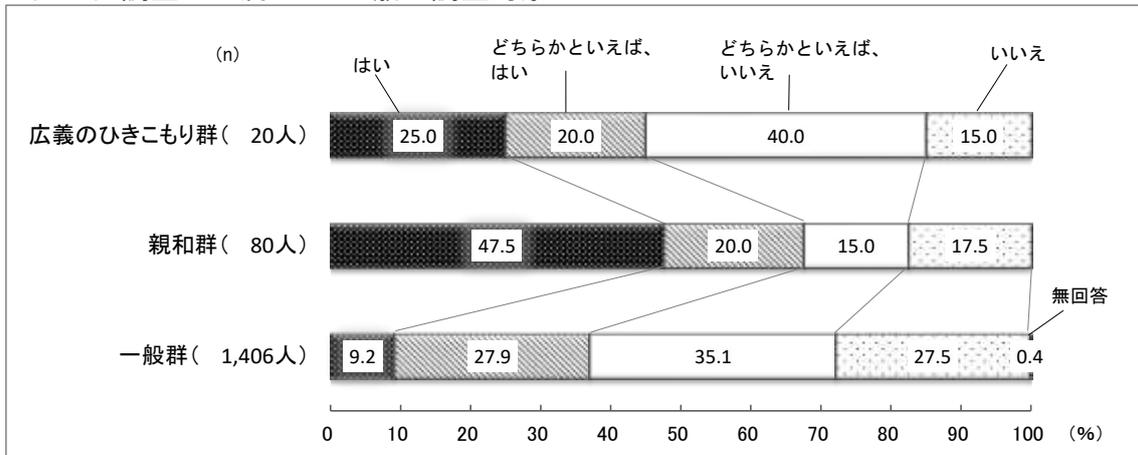
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



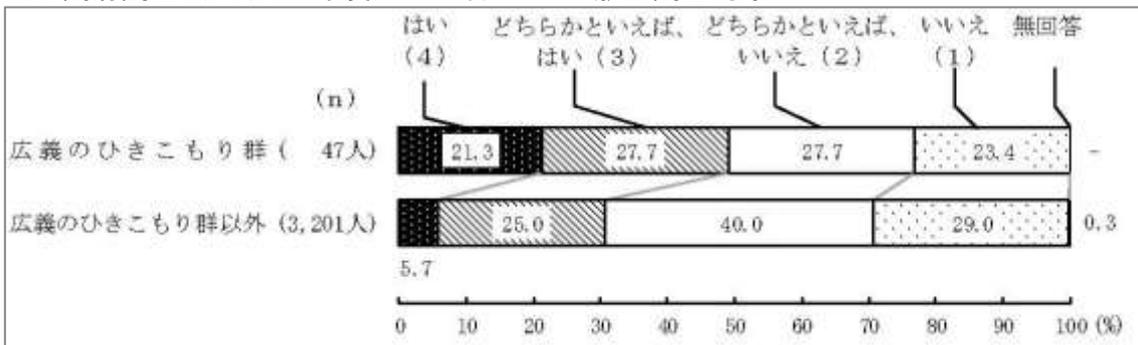
(8) 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」が40.0%、「はい」が25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「はい」の割合が高く、対人関係に悩みやすい傾向にある。

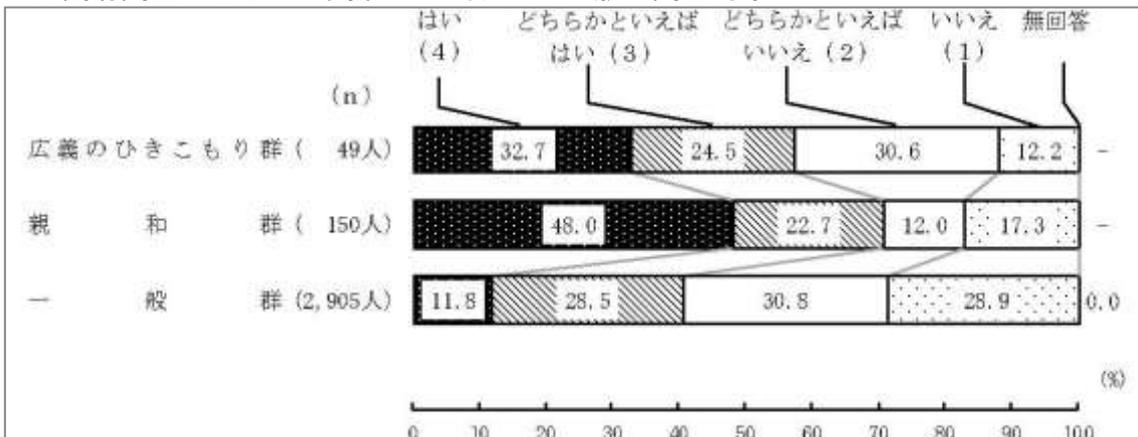
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



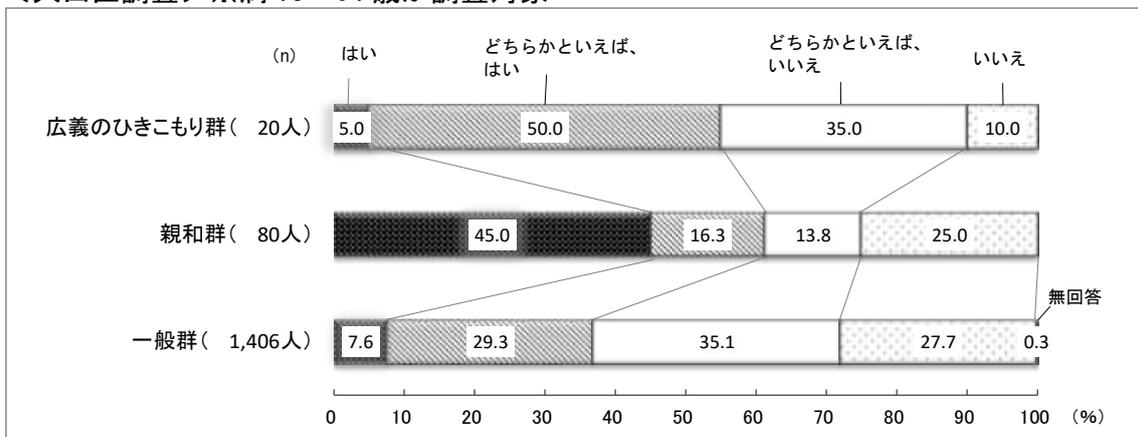
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



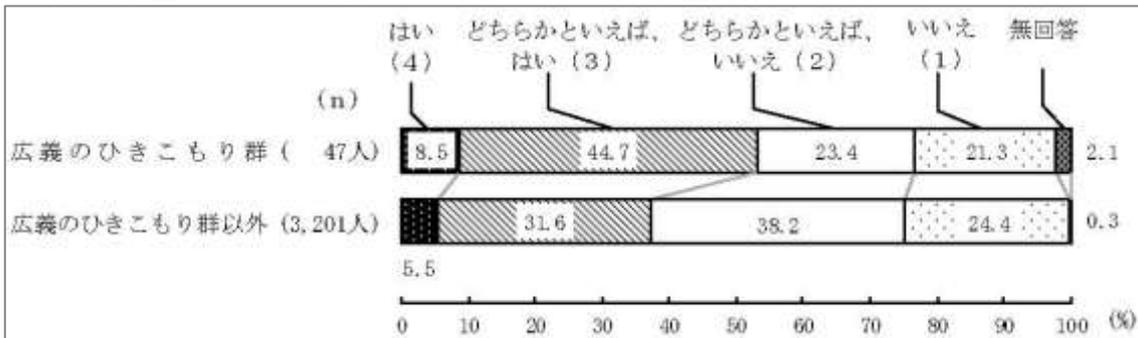
(9) 自分の感情を表に出すのが苦手だ

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が50.0%、「どちらかといえば、いいえ」が35.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた割合が高く、感情表出が苦手な傾向にある。

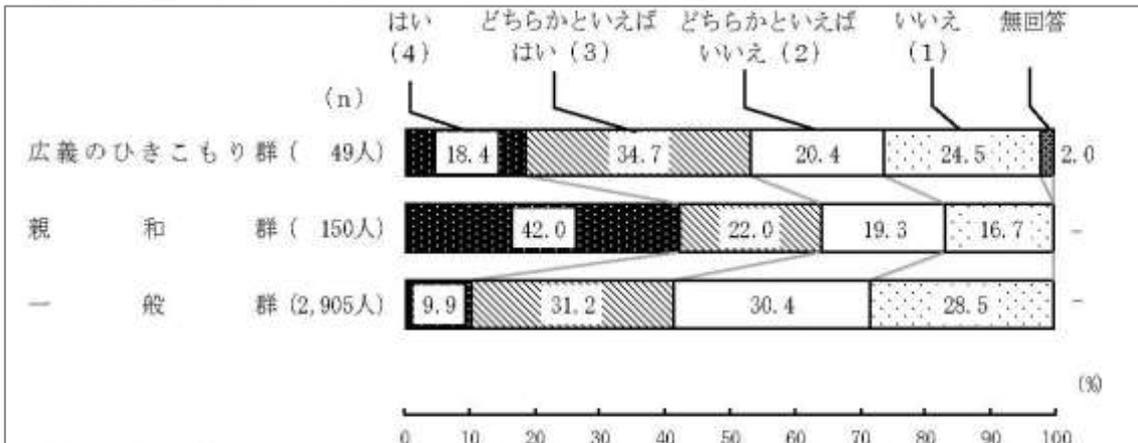
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



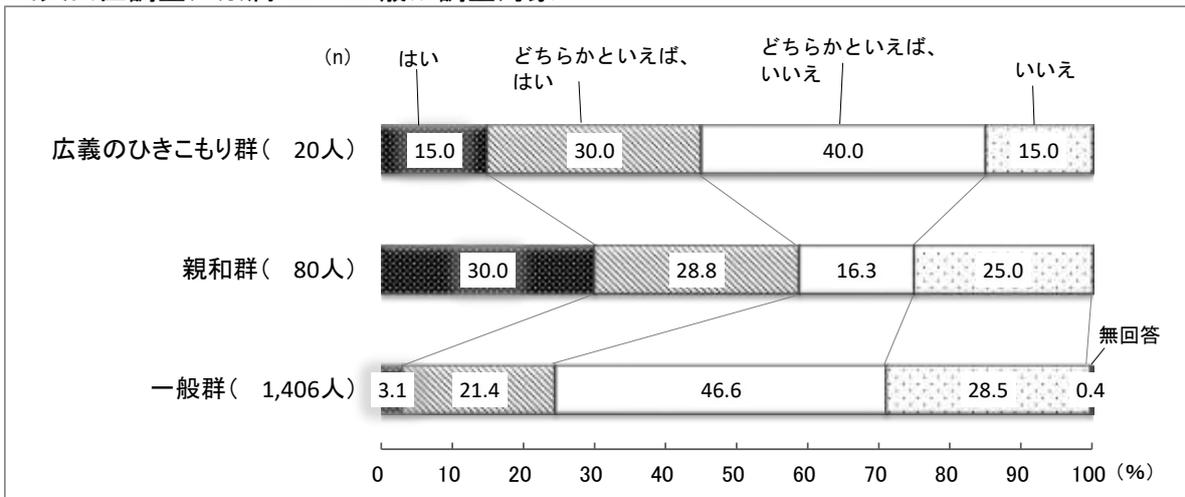
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



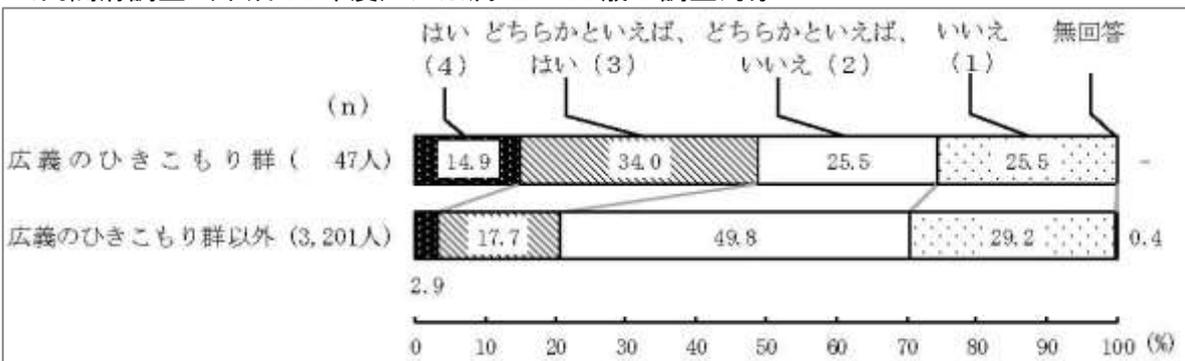
(10) 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」が40.0%、「どちらかといえば、はい」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30年度）と比べて大きな差はみられない。一方、一般群と比べると「はい」の割合が高く、問題対処が苦手と感じていることがうかがえる。

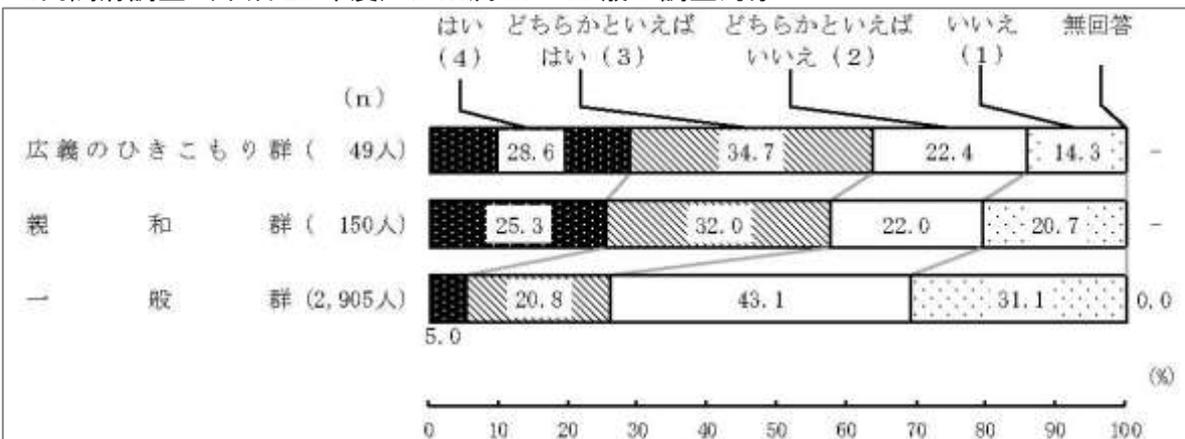
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



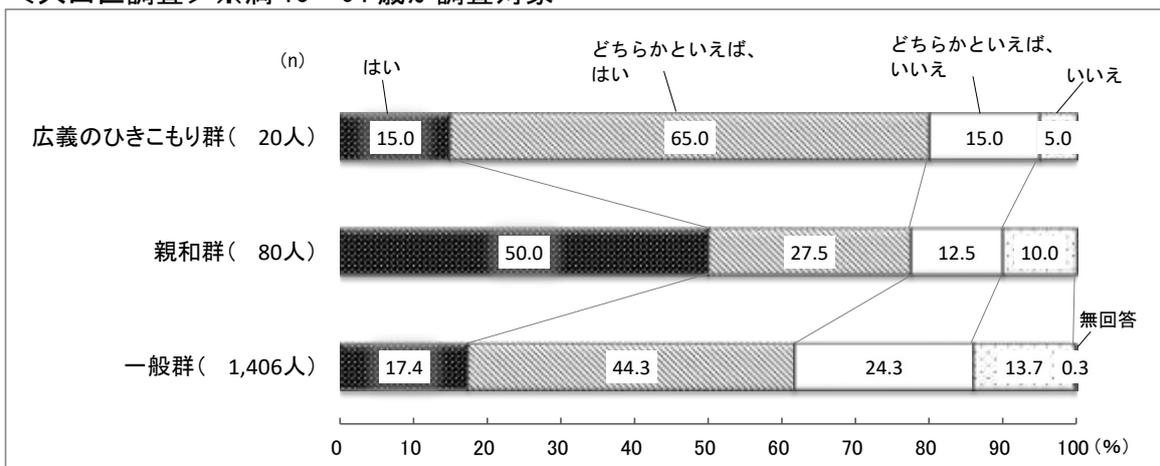
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



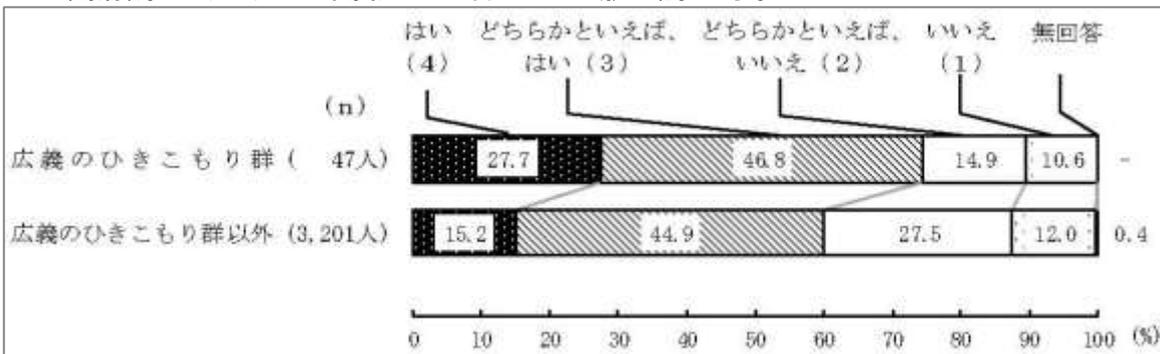
(11) たとえ親であっても、自分のやりたいことに口出ししないで欲しい

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が65.0%、「はい」「どちらかといえば、いいえ」がそれぞれ15.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられず、他人からの干渉を嫌がる傾向にある。

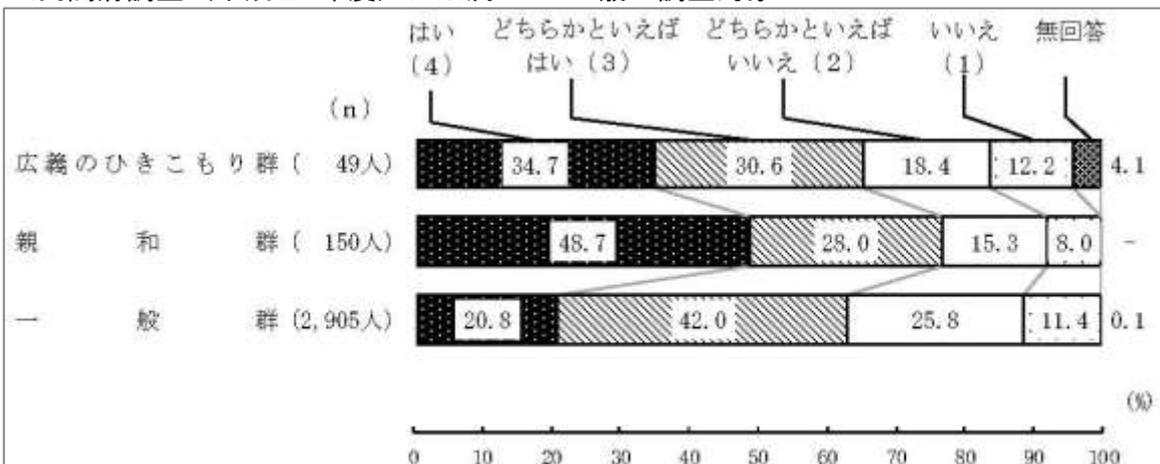
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



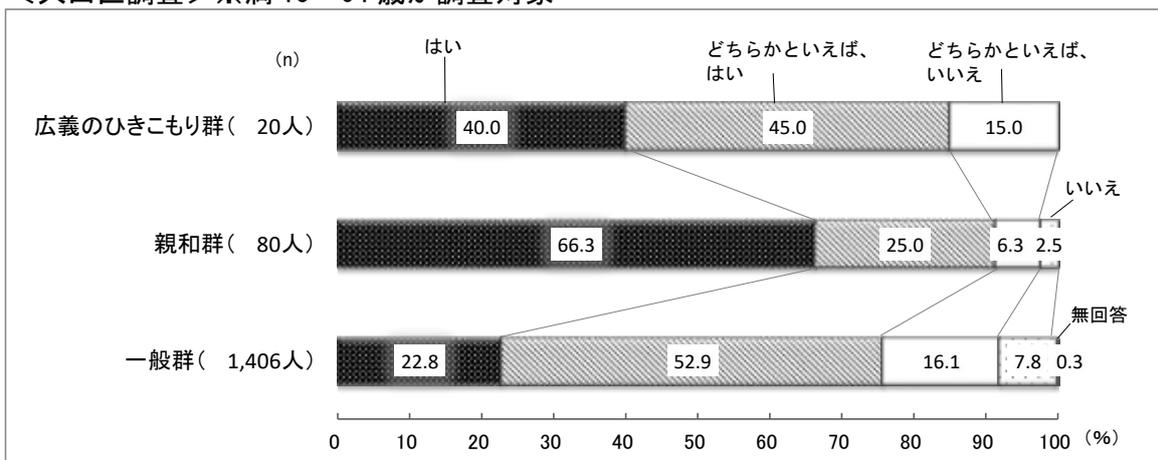
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



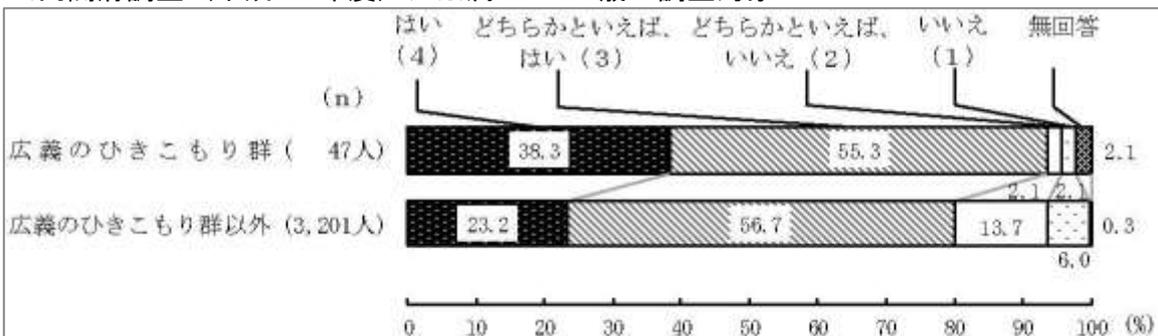
(12) 自分の生活のことで、人から干渉されたくない

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が45.0%、「はい」が40.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30年度）と比べて大きな差はみられず、「はい」「どちらかといえば、はい」が合わせて8割以上を占めており、他人からの干渉を嫌がる傾向にある。

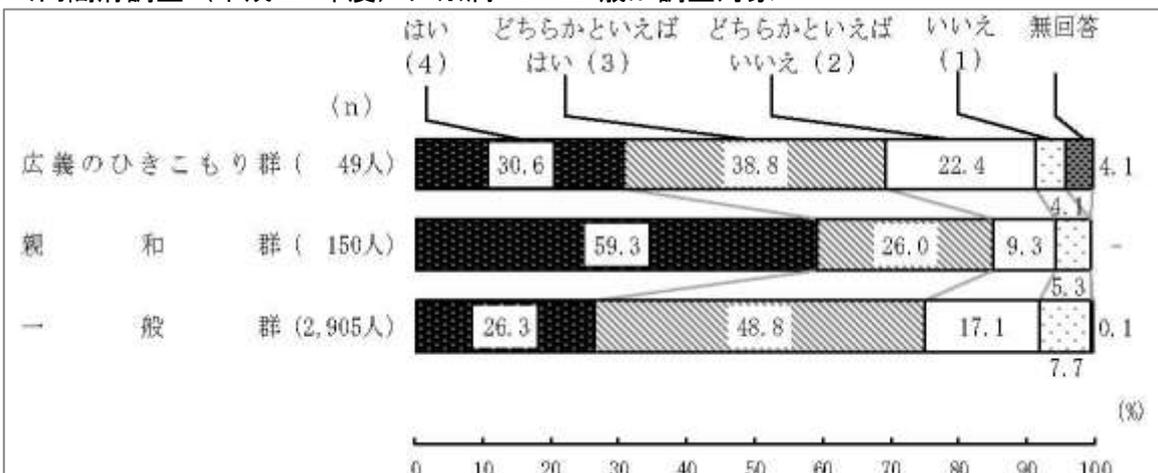
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



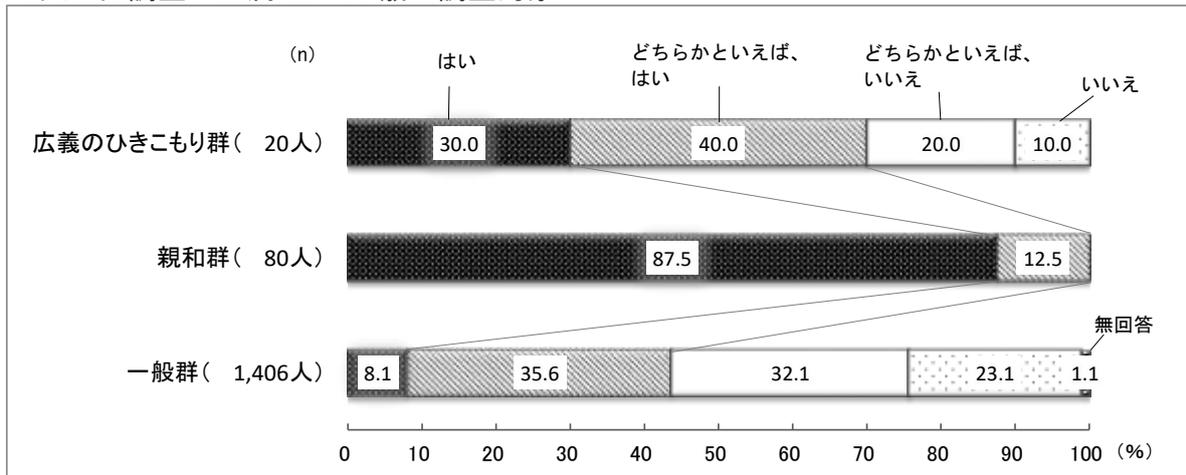
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



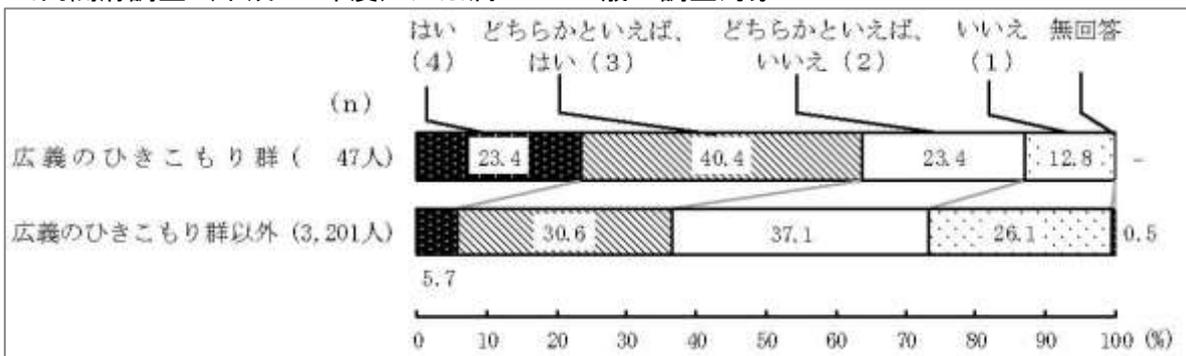
(13) 家や自室に閉じこもっていて、外に出ない人たちの気持ちがわかる

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が40.0%、「はい」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられない。

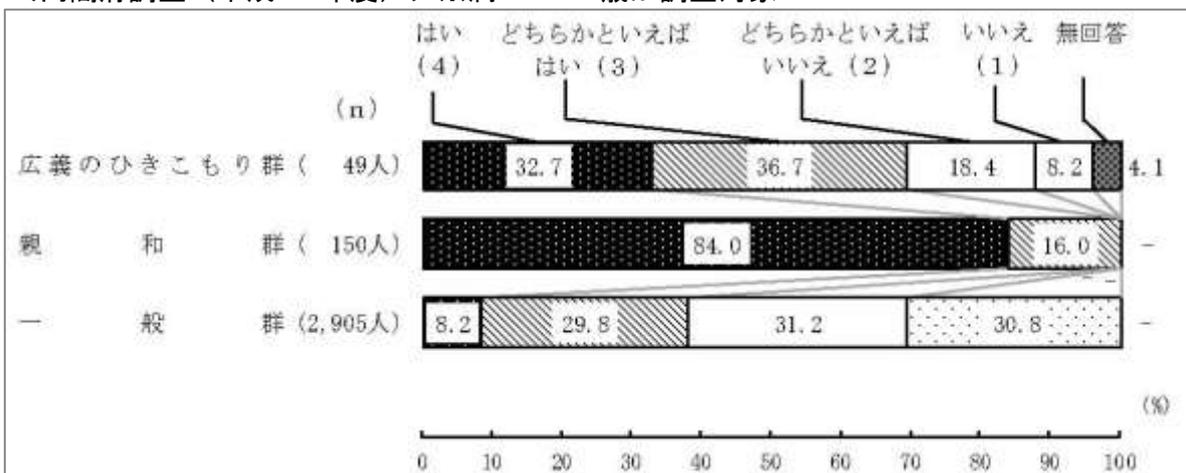
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



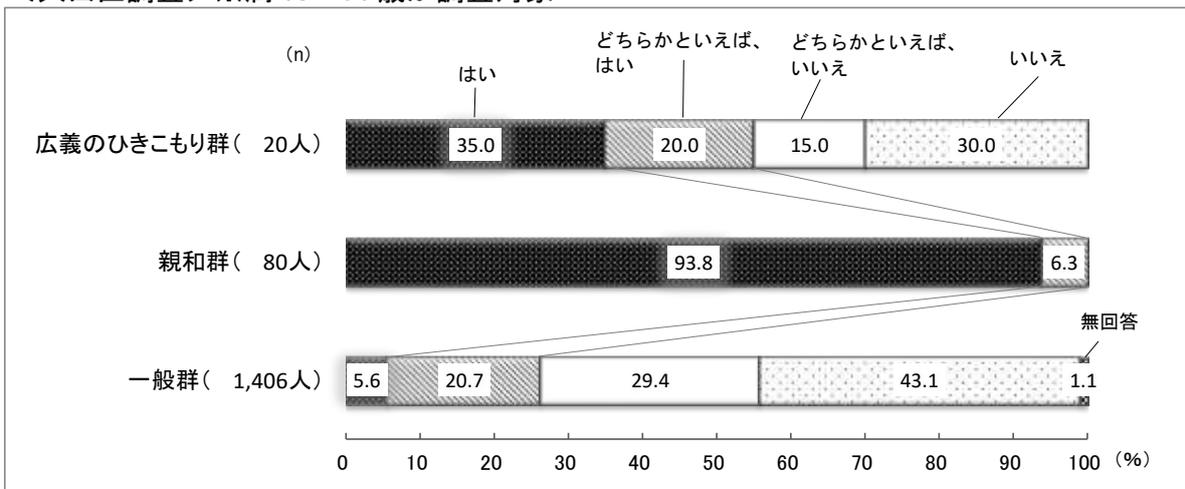
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



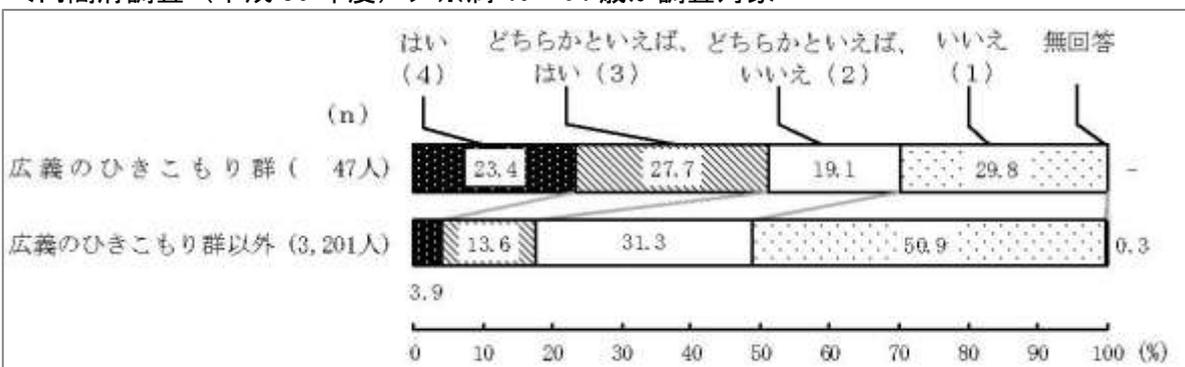
(14) 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

- 大田区のひきこもり群は「はい」が35.0%、「いいえ」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区、内閣府調査（平成30年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。

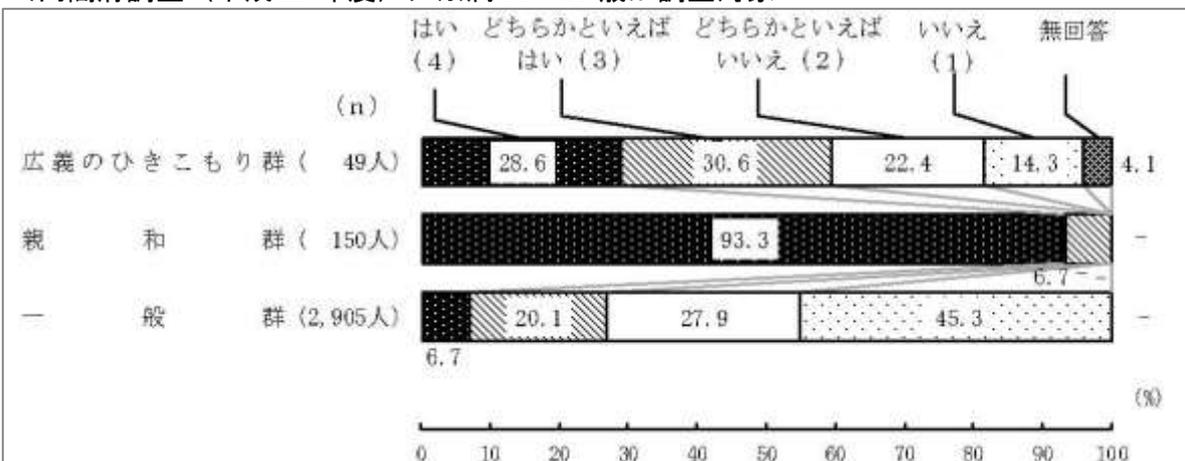
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



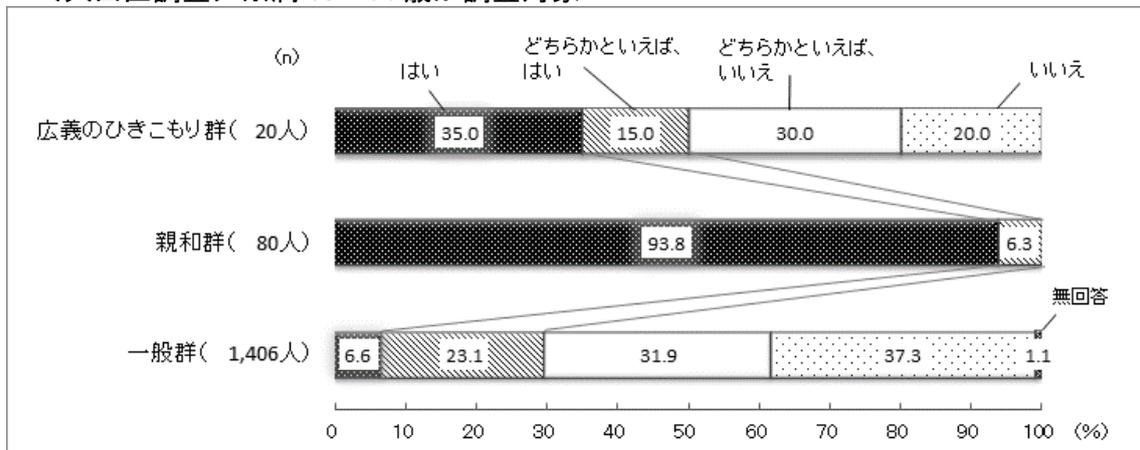
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



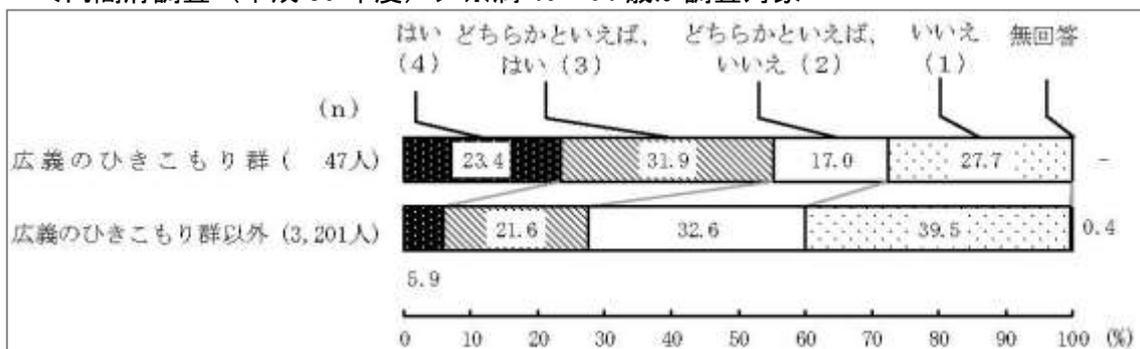
(15) 嫌な出来事があると、外に出たくなる

- 大田区のひきこもり群は「はい」が35.0%、「どちらかといえば、いいえ」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに、「はい」「どちらかといえば、はい」と「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」をそれぞれ合わせた割合は同程度になり、大きな差はみられない。

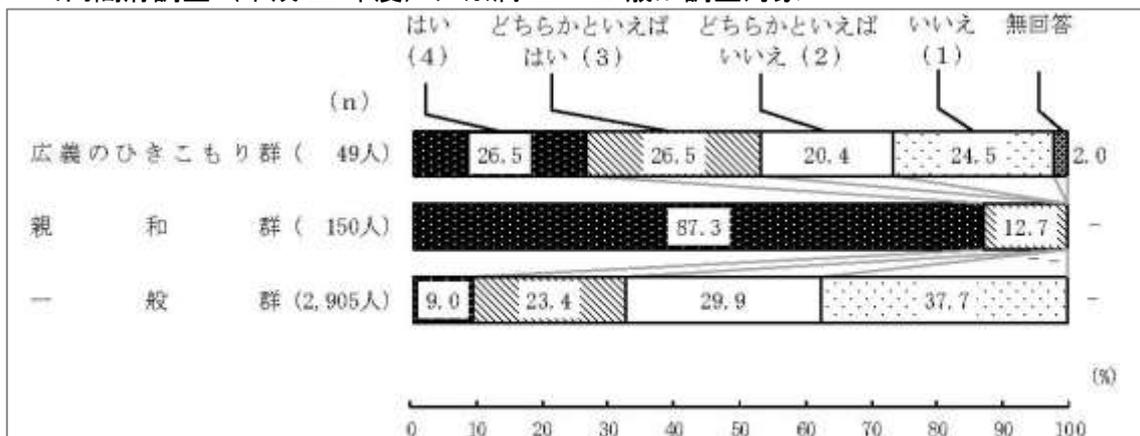
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



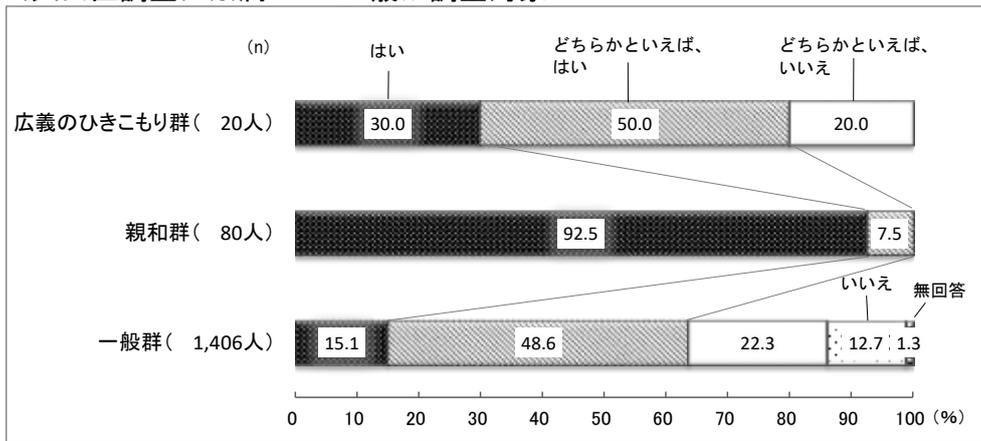
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



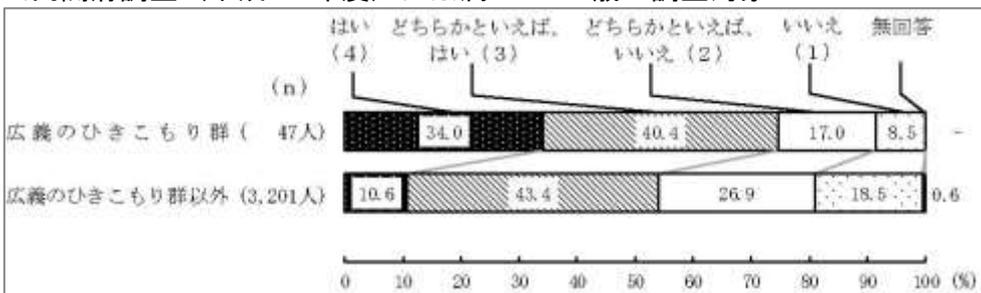
(16) 理由があるなら、家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が50.0%、「はい」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」の割合が高い。
- 大田区では、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせて8割を占めており、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられない。

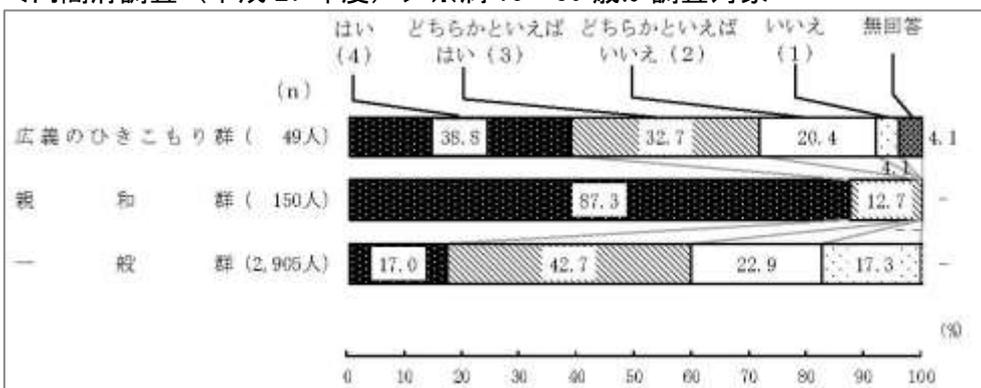
<大田区調査>※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）>※満40~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）>※満15~39歳が調査対象

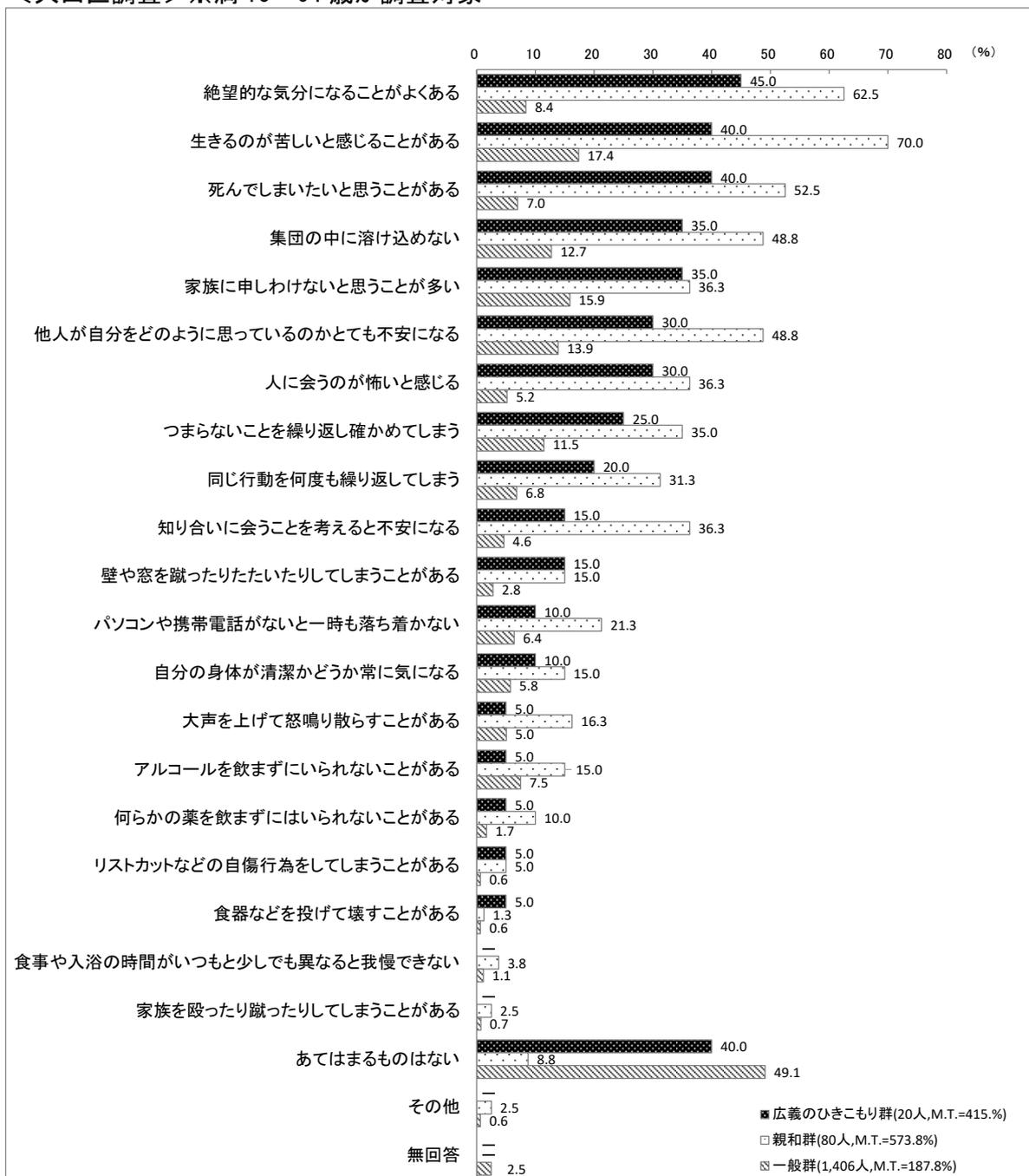


Q38(1)~(16)の結果をまとめると、大田区のひきこもり群は、内閣府調査と大きな差はみられず、人間関係への不安が強く、対人コミュニケーションや人づきあい、感情表出が苦手という傾向にある。また、生活の中で問題に直面した際に、周囲へ助けや支援を求めることが苦手な傾向もみられる。

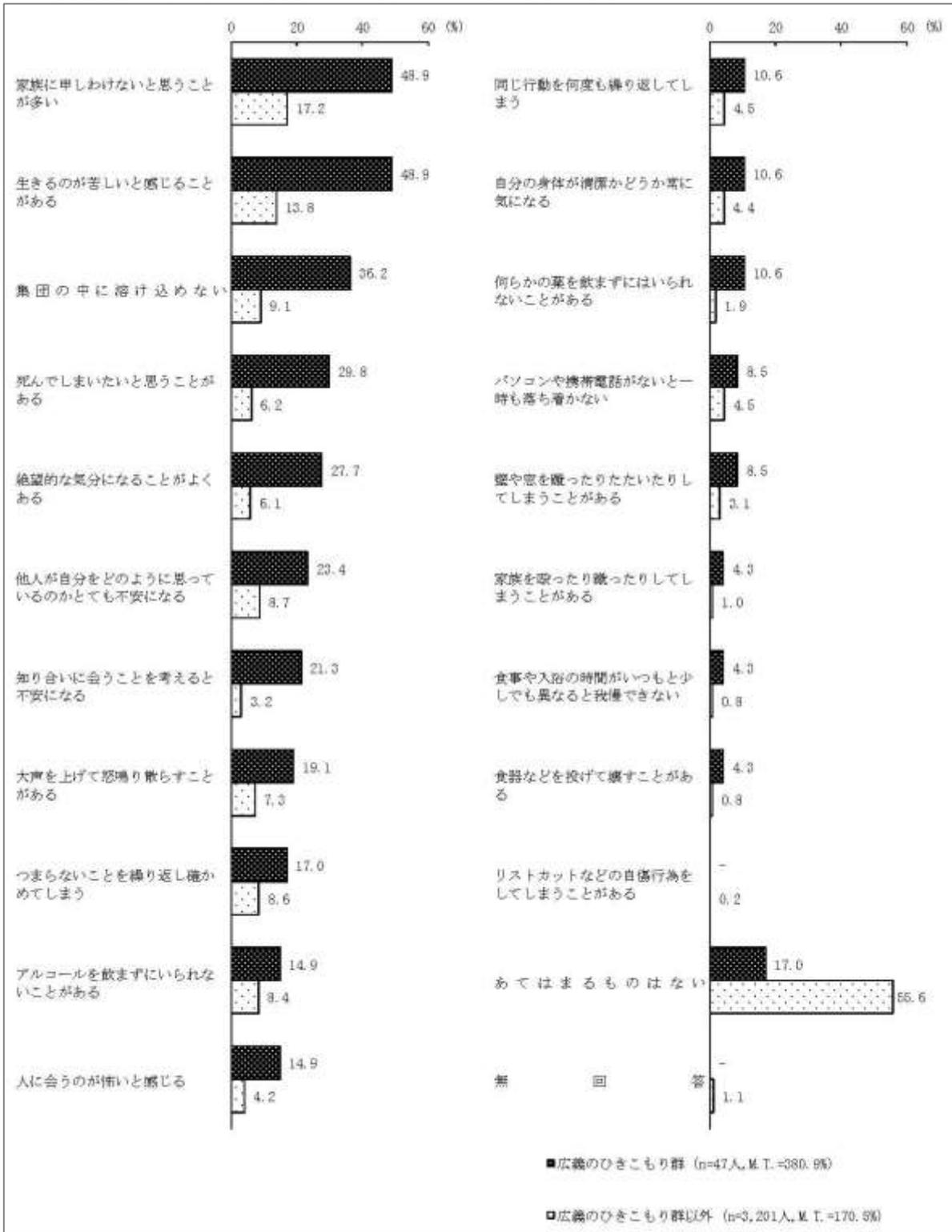
Q39 次に挙げられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてに○をつけてください。
(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「絶望的な気分になることがよくある」が45.0%、「生きるのが苦しいと感じることがある」「死んでしまいたいと思うことがある」がそれぞれ40.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「家族に申しわけないと思うことが多い」「生きるのが苦しいと感じることがある」が上位となっている。

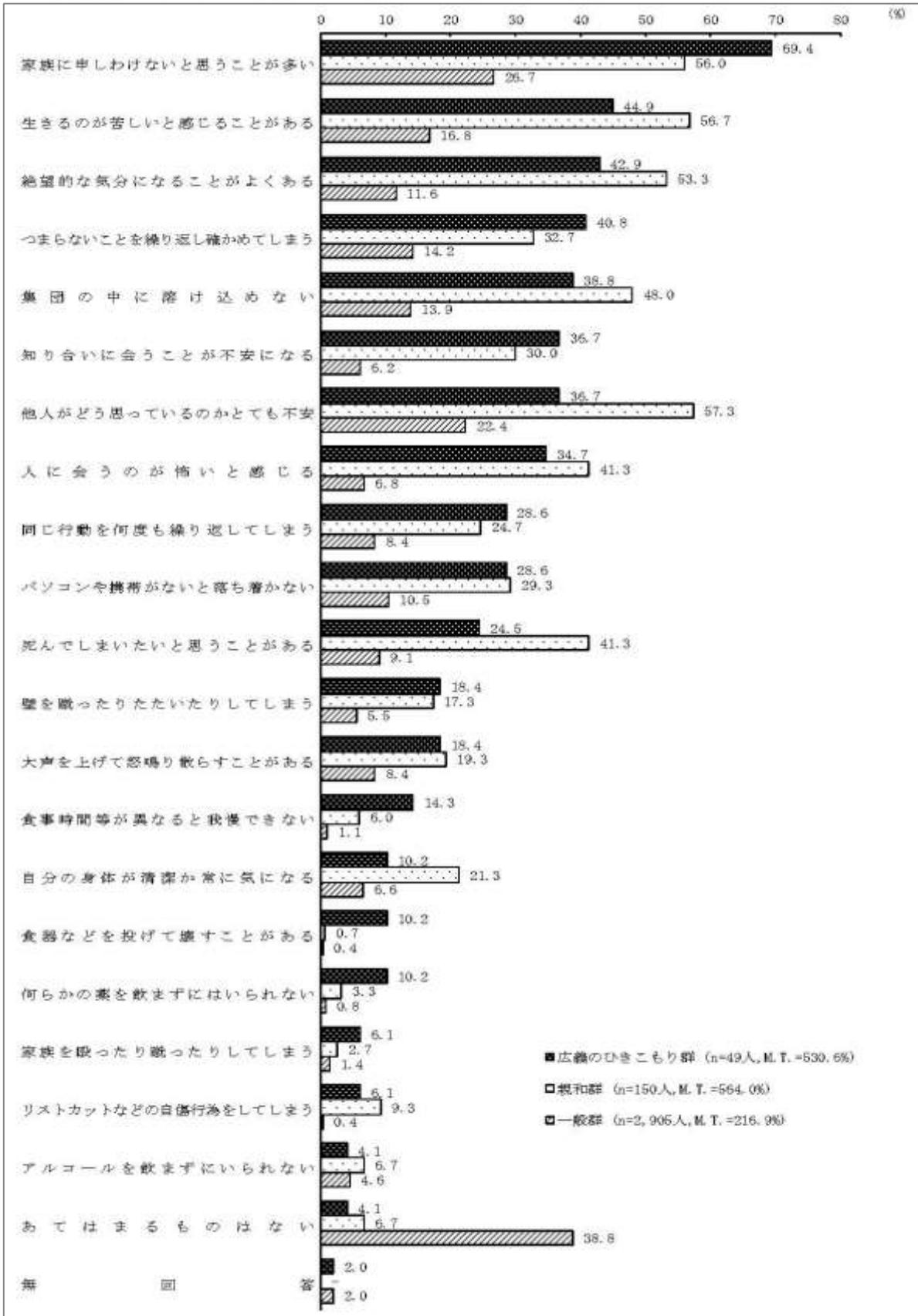
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



■ ふだんの生活状況について

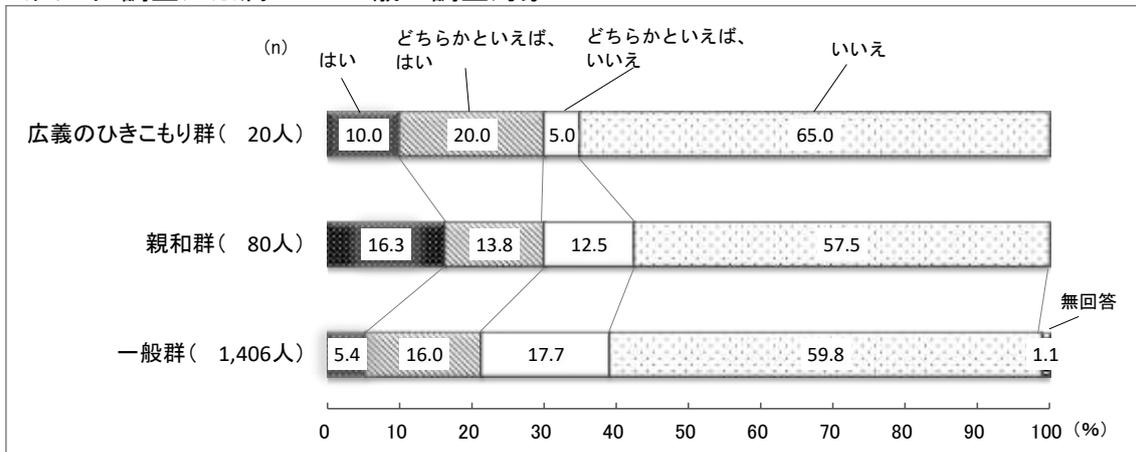
Q40 次に挙げられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○をつけてください。

(単一回答)

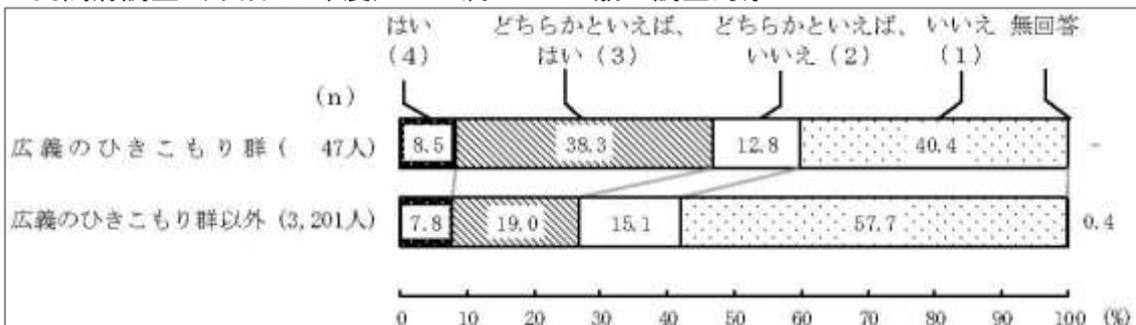
(1) 身の回りのことは家族がしている

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が65.0%、「どちらかといえば、はい」が20.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「いいえ」の割合が高く、家族への依存度は低く、自立した生活を送っていることがうかがえる。

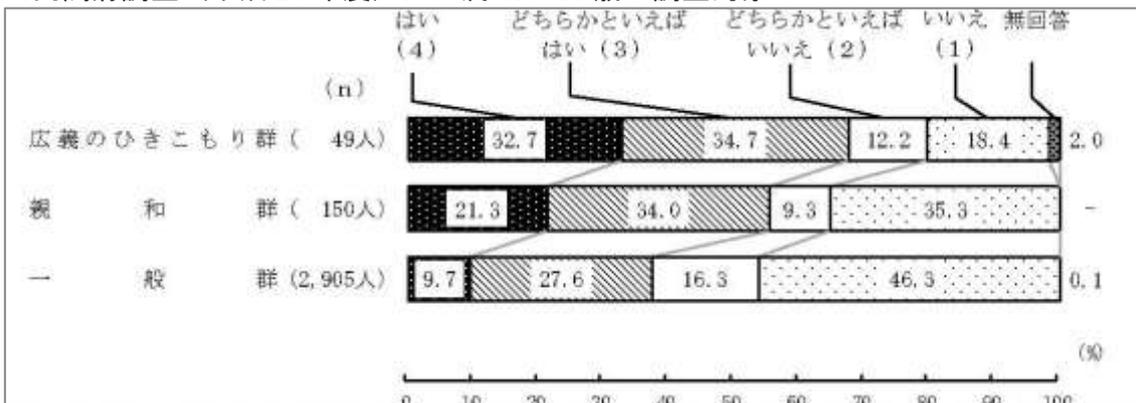
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



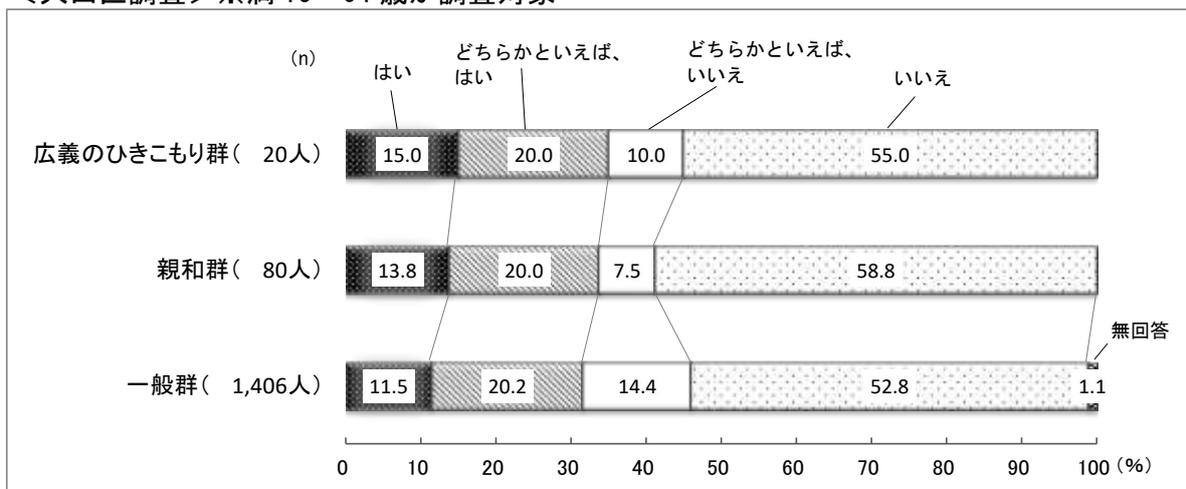
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



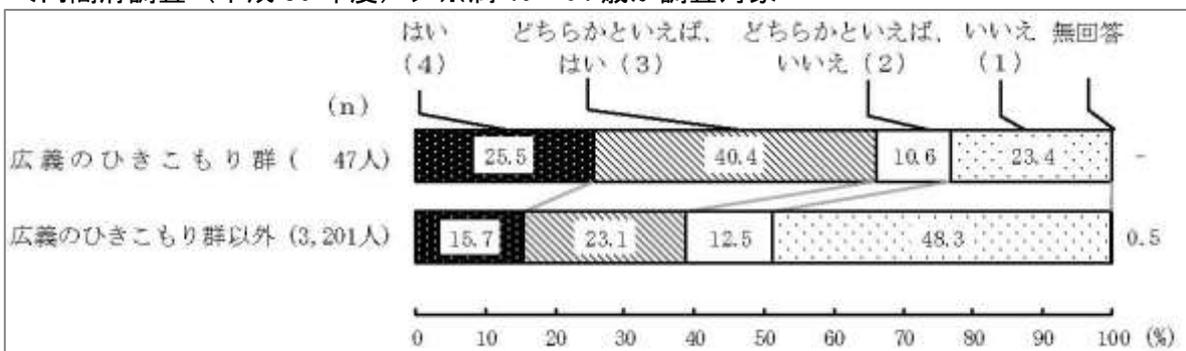
(2) 食事や掃除は家族がしている

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が55.0%、「どちらかといえば、はい」が20.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「いいえ」の割合が高く、家族への依存度は低く、自立した生活を送っていることがうかがえる。

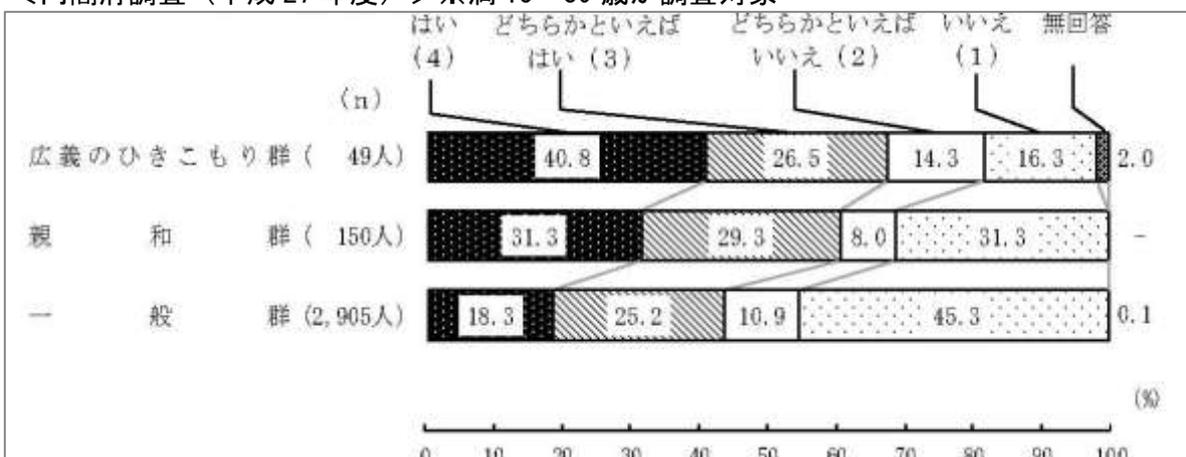
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



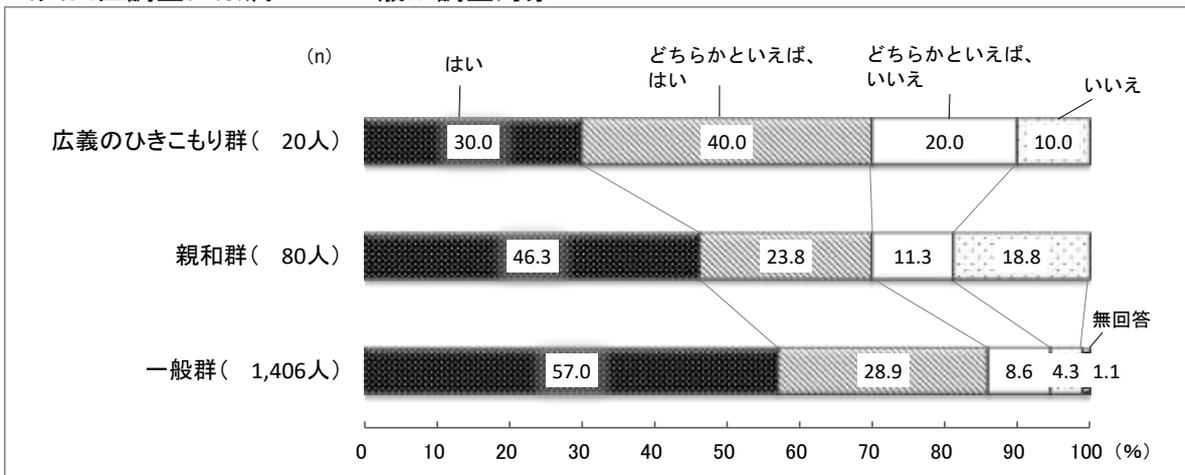
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



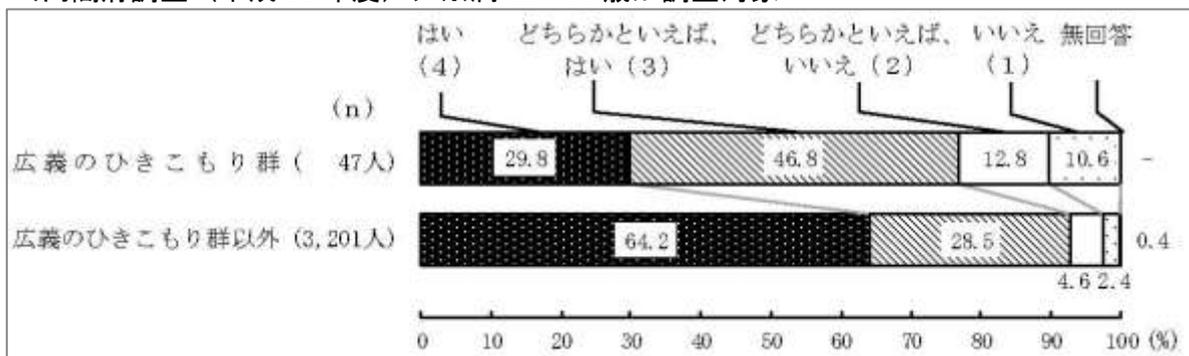
(3) 朝、決まった時間に起きられる

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が40.0%、「はい」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30年度）と同様に、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせて7割を占めており、生活リズムは概ね整っている傾向にある。

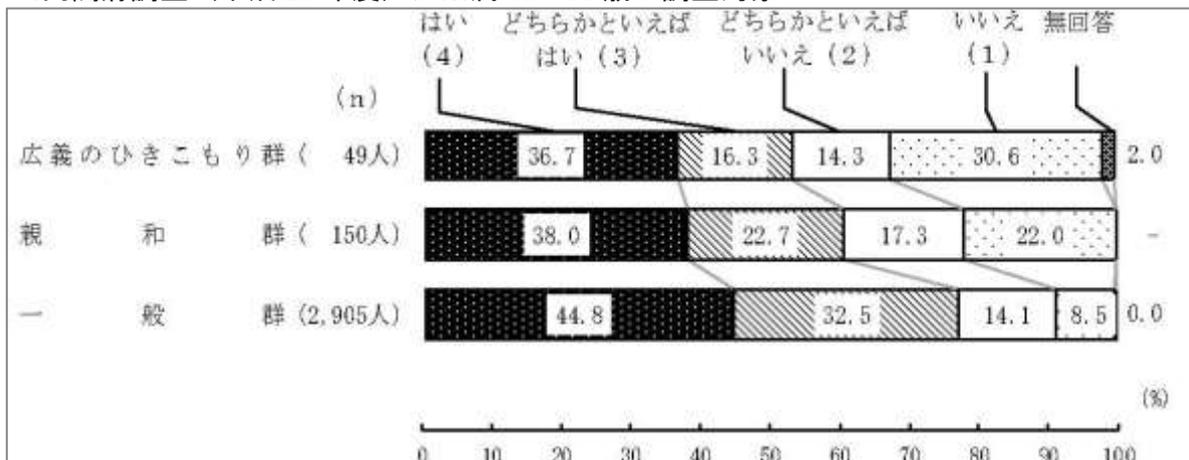
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）>※満40～64歳が調査対象



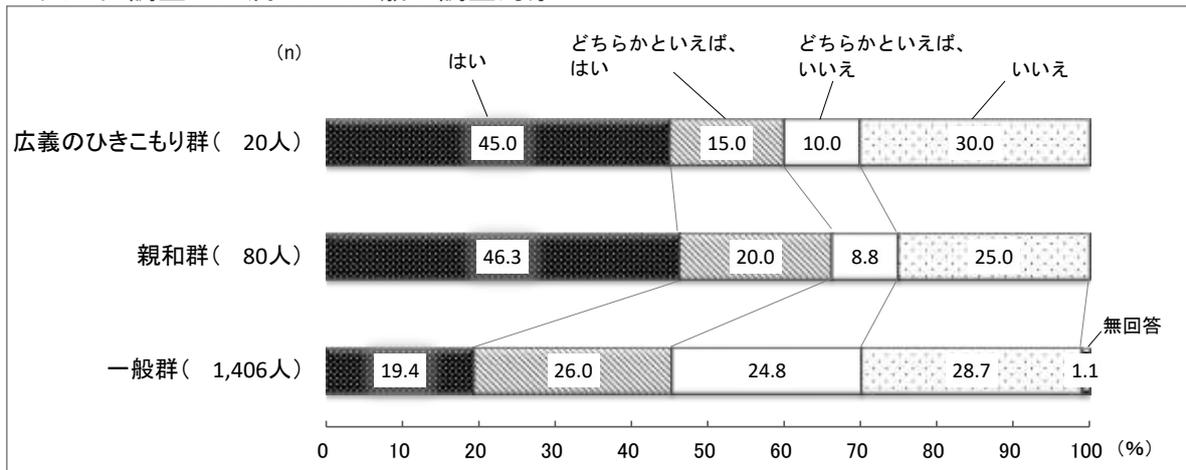
<内閣府調査（平成27年度）>※満15～39歳が調査対象



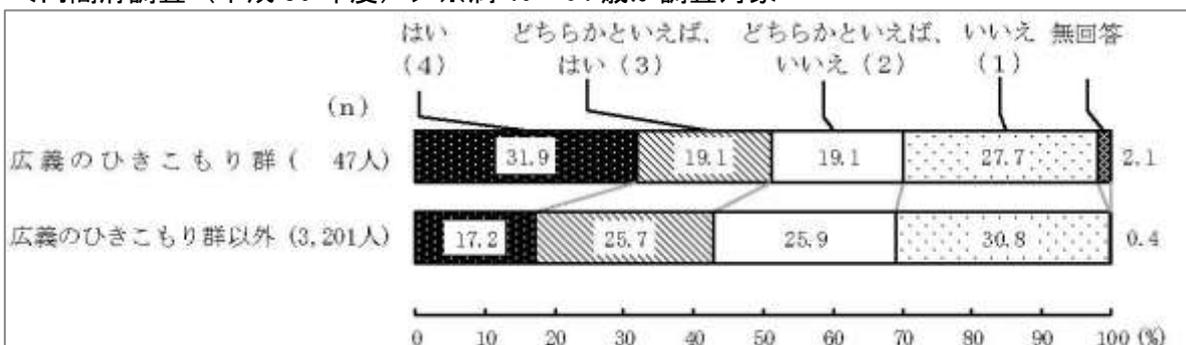
(4) 深夜まで起きていることが多い

- ・大田区のひきこもり群は「はい」が45.0%、「いいえ」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様に、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせて5割を超え、就寝時間は遅い傾向にある。

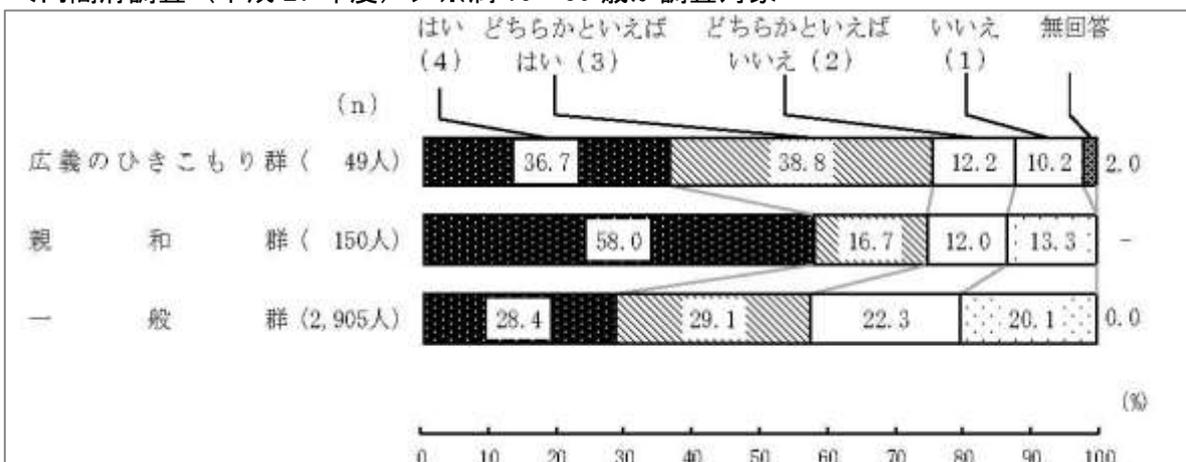
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）>※満40～64歳が調査対象



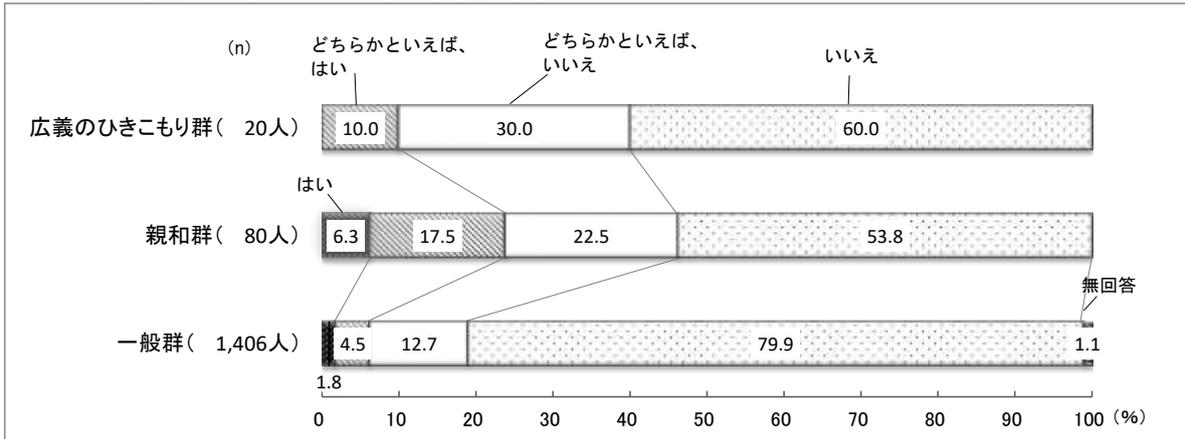
<内閣府調査（平成27年度）>※満15～39歳が調査対象



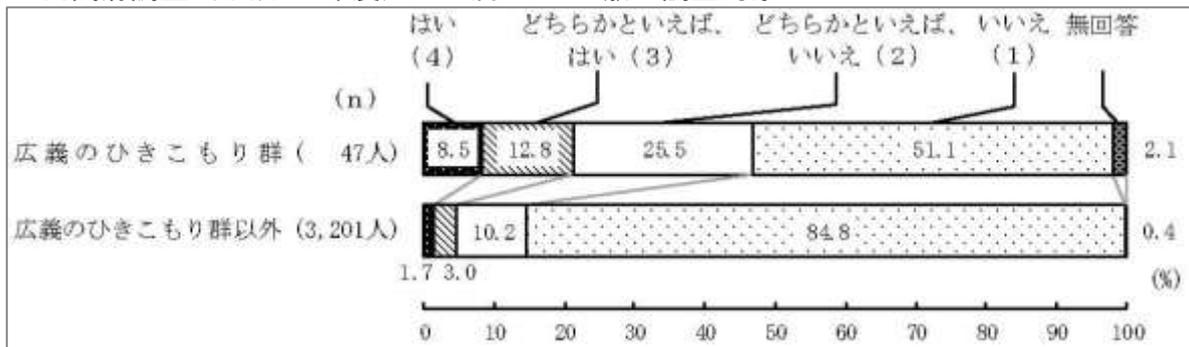
(5) 昼夜逆転の生活をしている

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が60.0%、「どちらかといえば、いいえ」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」を合わせて9割を占めており、生活リズムは概ね整っている傾向にある。

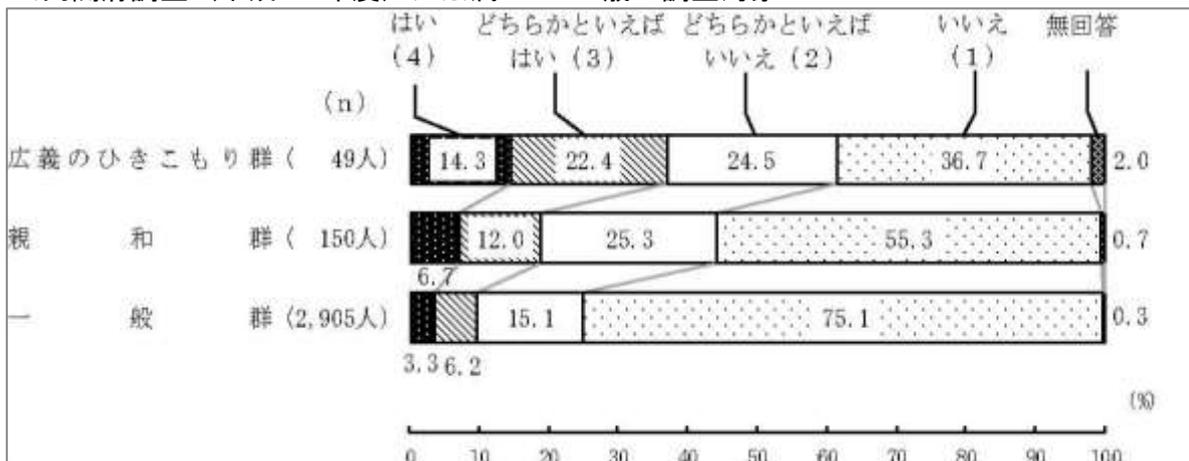
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）>※満40～64歳が調査対象



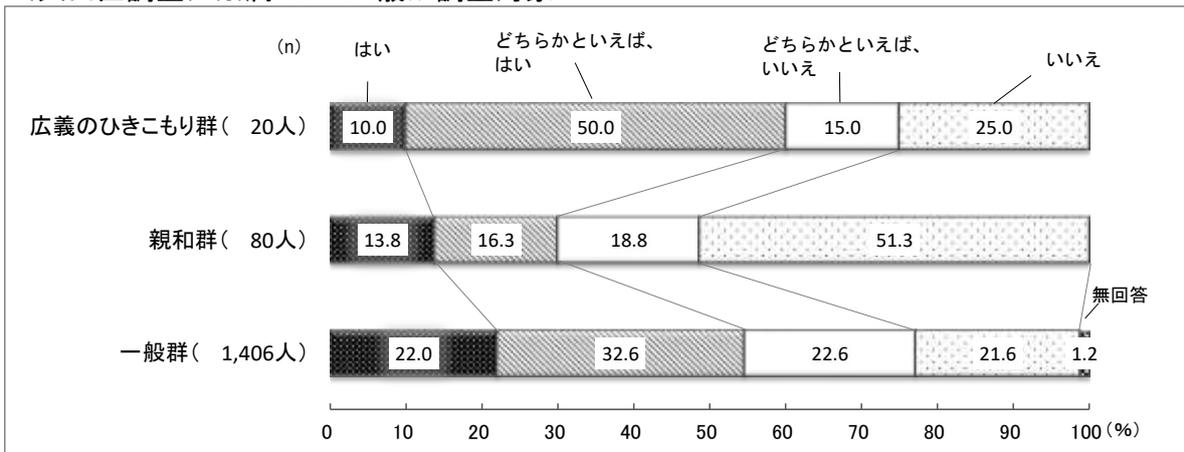
<内閣府調査（平成27年度）>※満15～39歳が調査対象



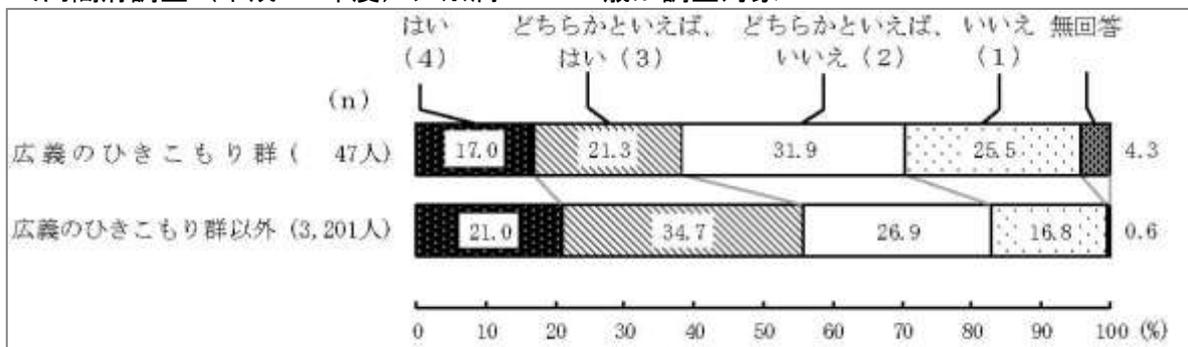
(6) 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が50.0%、「いいえ」が25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた割合が高く、社会への関心が高い傾向にある。

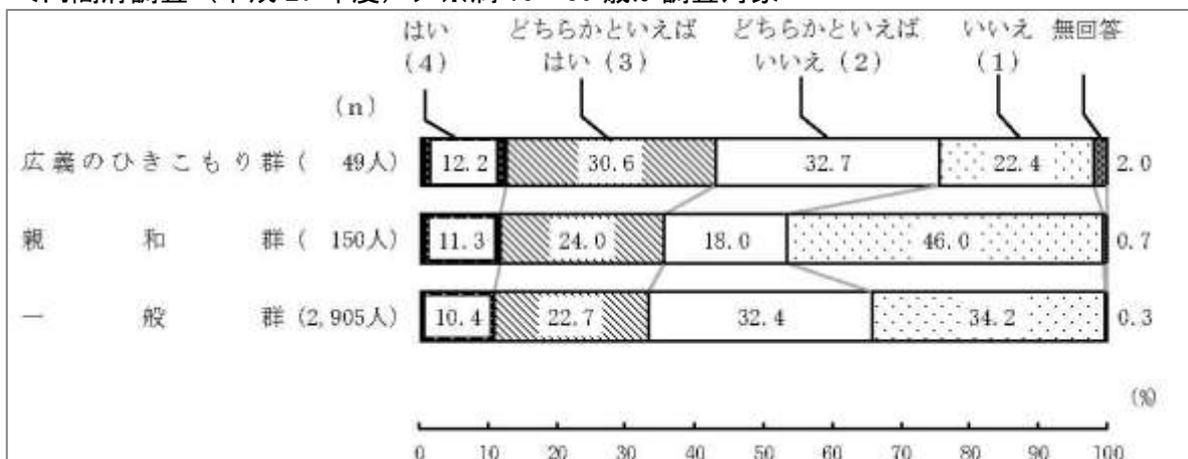
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）>※満40～64歳が調査対象



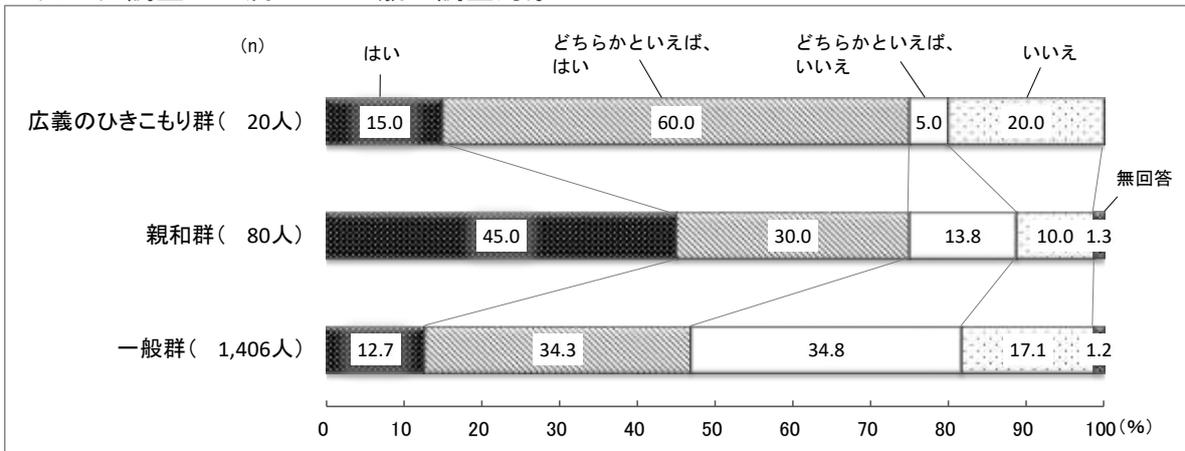
<内閣府調査（平成27年度）>※満15～39歳が調査対象



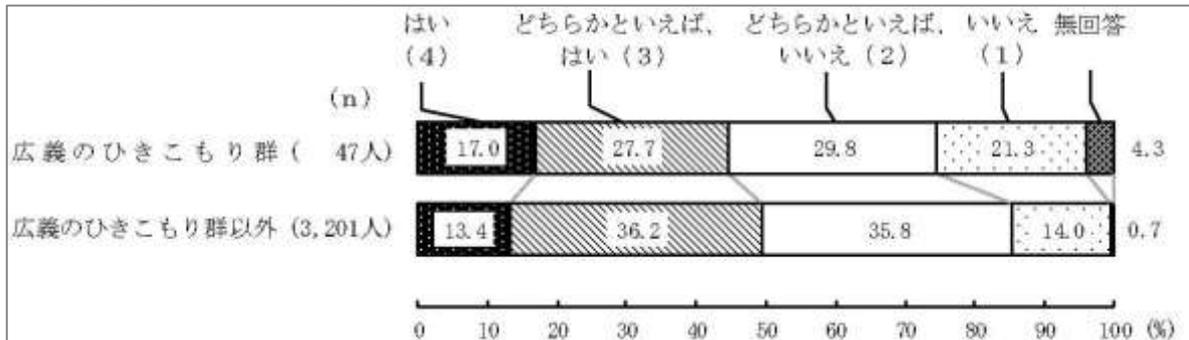
(7) 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が60.0%、「いいえ」が20.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「どちらかといえば、はい」の割合が高く、物事を理不尽と感じやすい傾向にある。

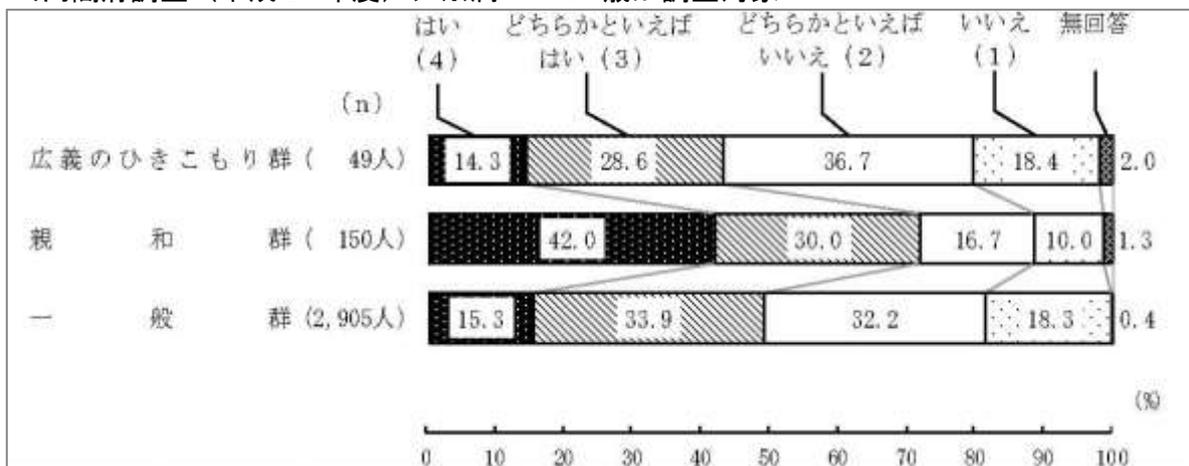
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



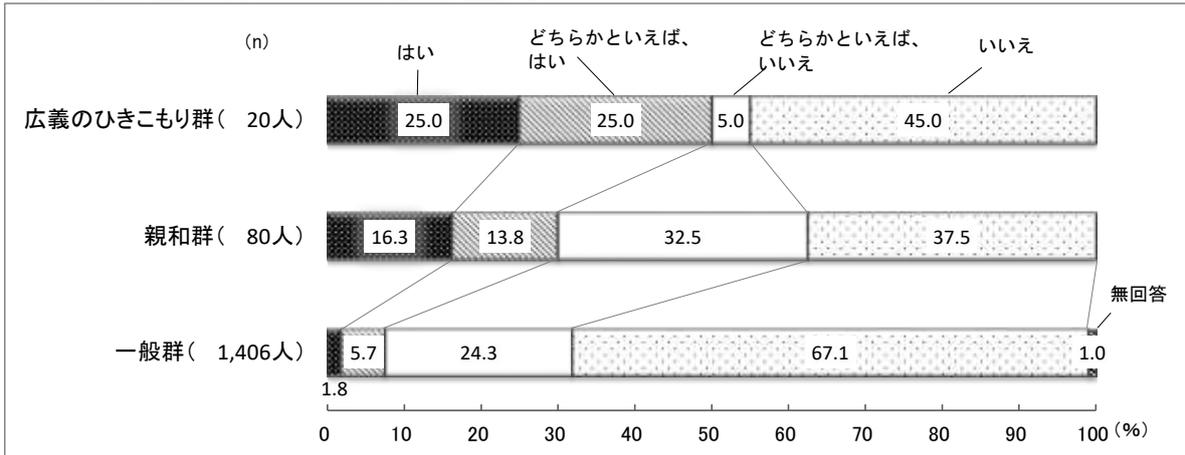
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



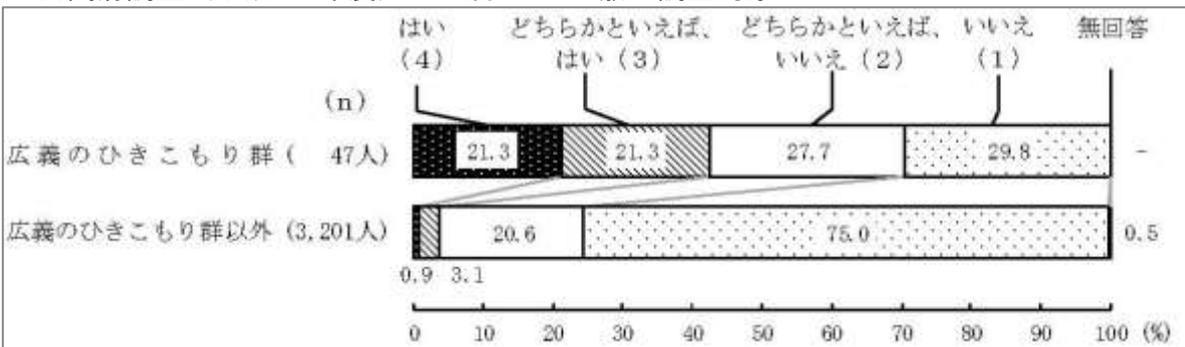
(8) 誰とも口を利かずに過ごす日が多い

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が 45.0%、「はい」「どちらかといえば、はい」がそれぞれ 25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）や一般群と比べて「はい」「どちらかといえば、はい」の割合が高く、対人交流の機会が少ない傾向にある。

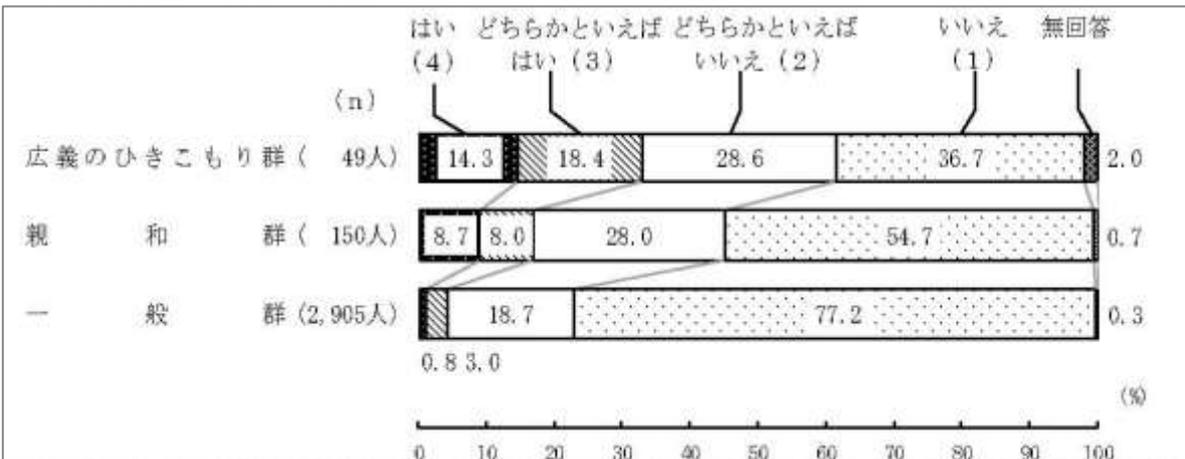
<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



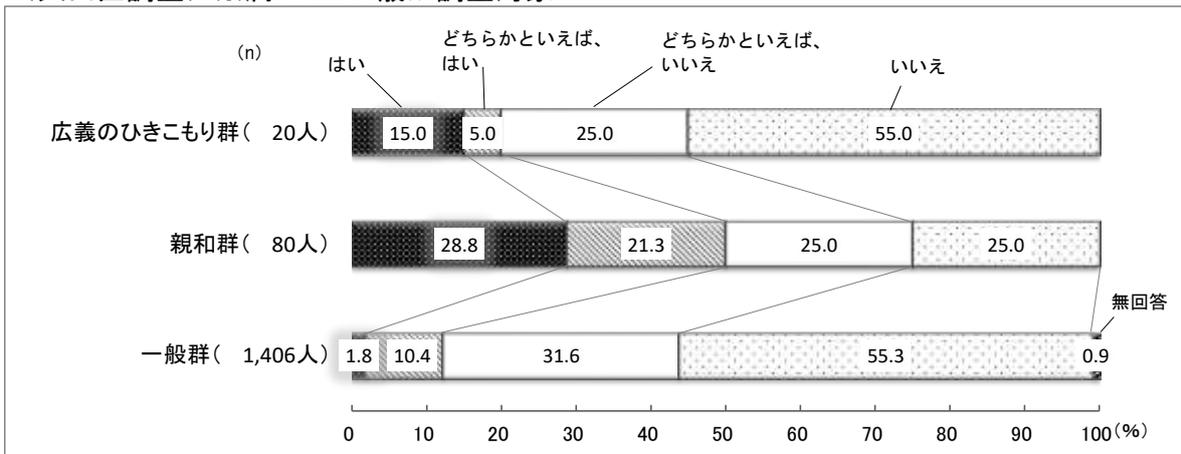
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



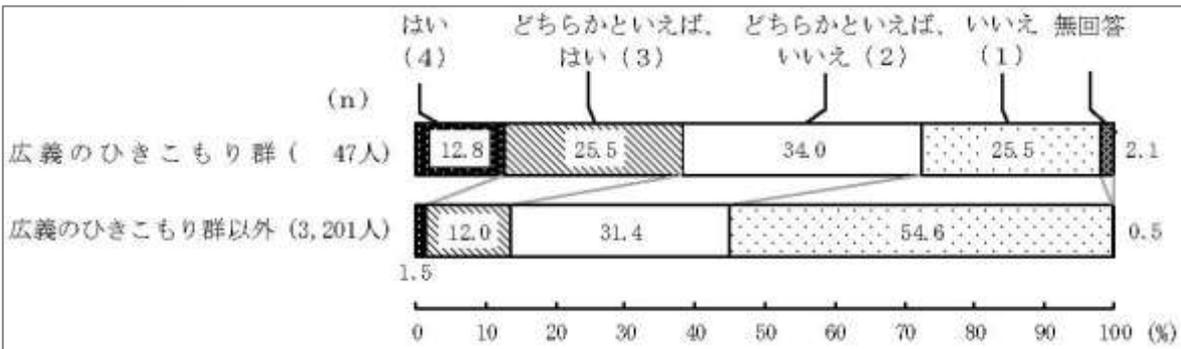
(9) 人と会話をするのはわずらわしい

- ・大田区のひきこもり群は「いいえ」が55.0%、「どちらかといえば、いいえ」が25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」が、内閣府調査（平成27年度）では「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「いいえ」の割合が高く、対人交流をわずらわしく感じていない傾向にある。

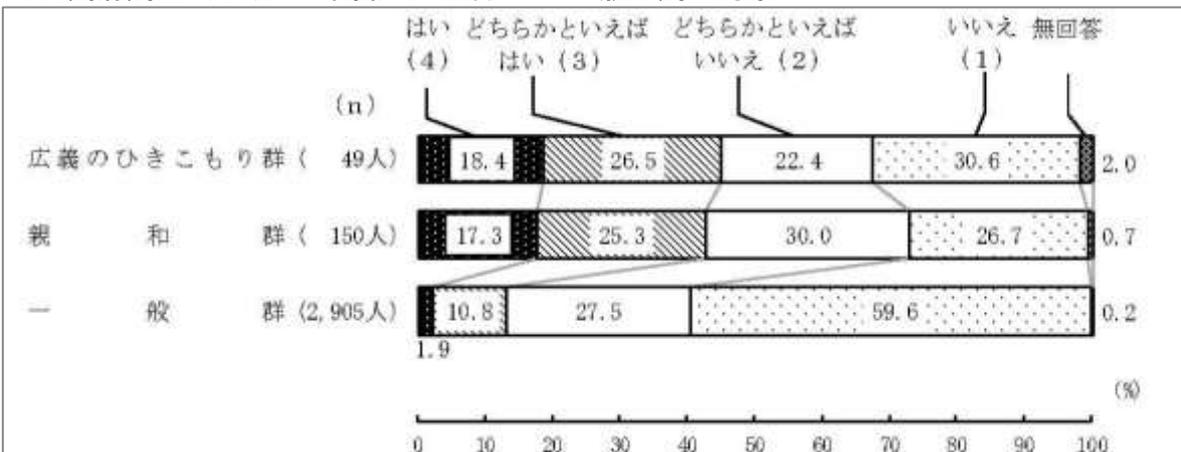
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



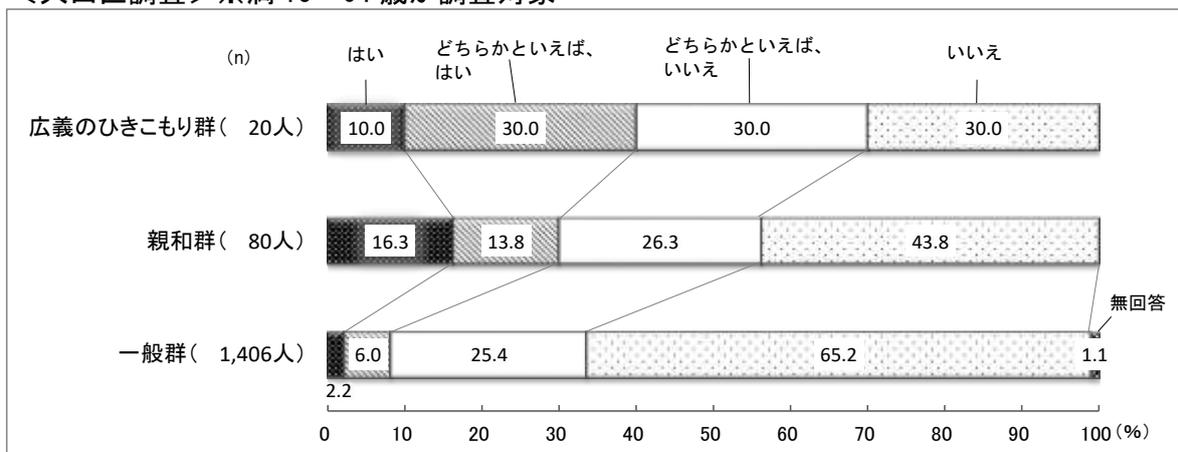
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



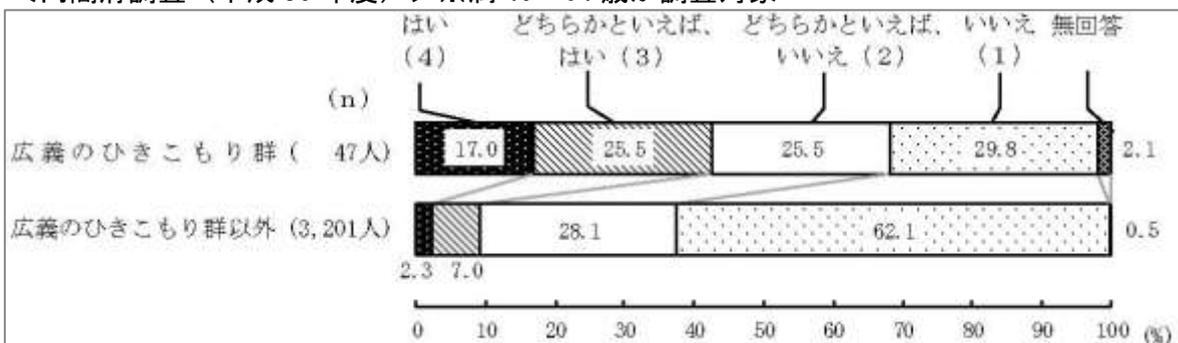
(10) 過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない

- ・大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」がそれぞれ30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「いいえ」の割合が高い。
- ・大田区では、「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」を合わせた割合が高く、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられない。一方、一般群と比べると、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた割合が高く、信頼できる人が身近にいないと感じている方もいることがうかがえる。

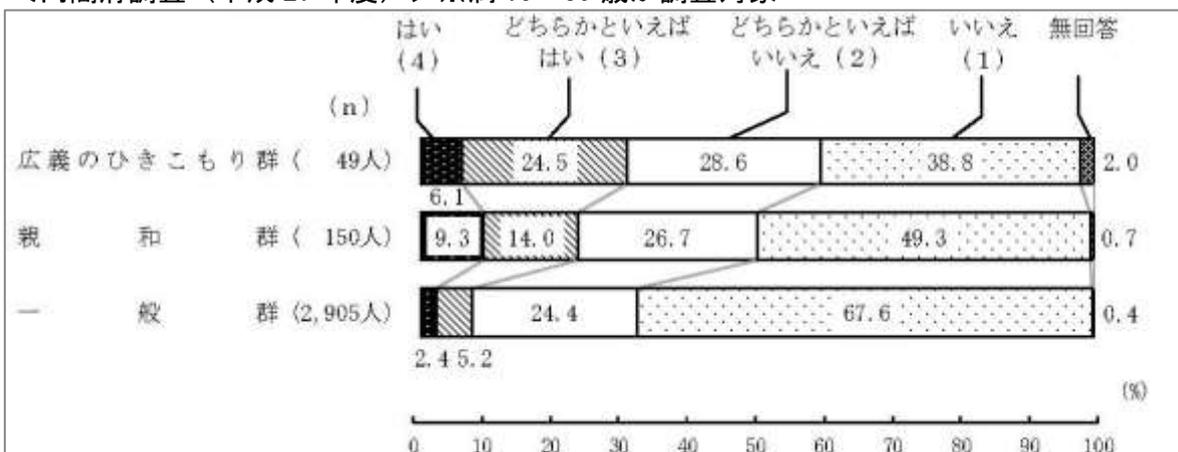
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



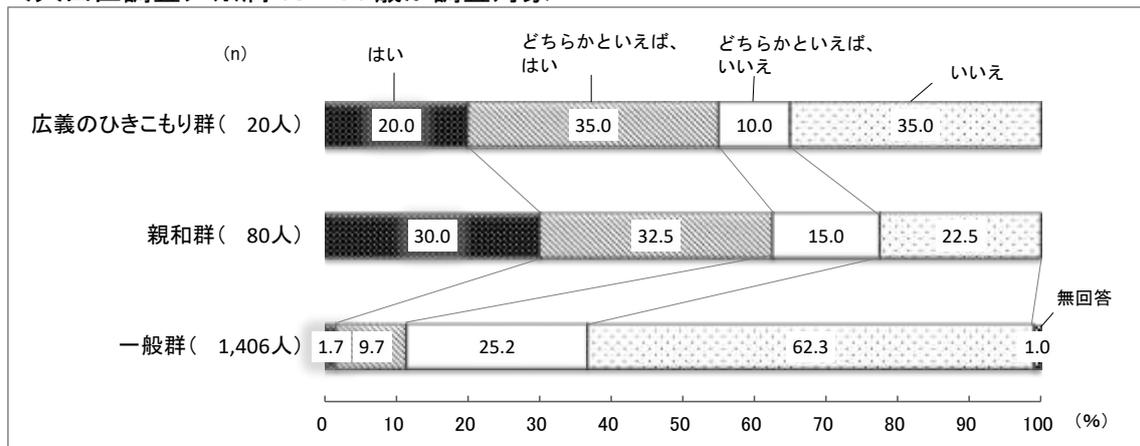
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



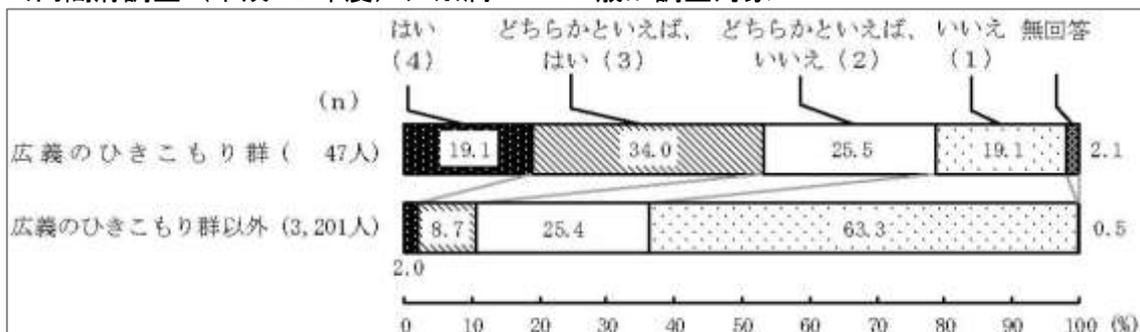
(11) 自分の精神状態は健康ではないと思う

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」「いいえ」がそれぞれ 35.0%、「はい」が 20.0%となっている。
- 内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が、内閣府調査（平成 27 年度）では「いいえ」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と比べると、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた割合は同程度である。一方、一般群と比べると、「はい」の割合が高く、精神面の不調を感じている傾向にある。

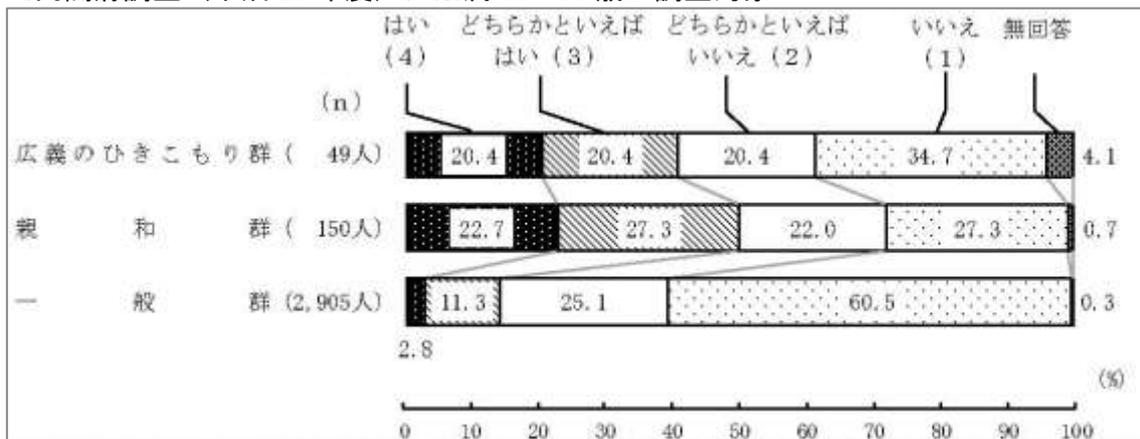
<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



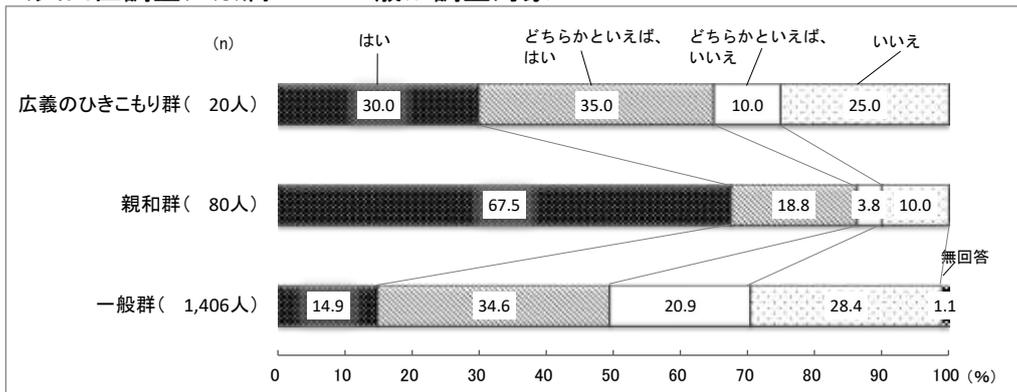
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



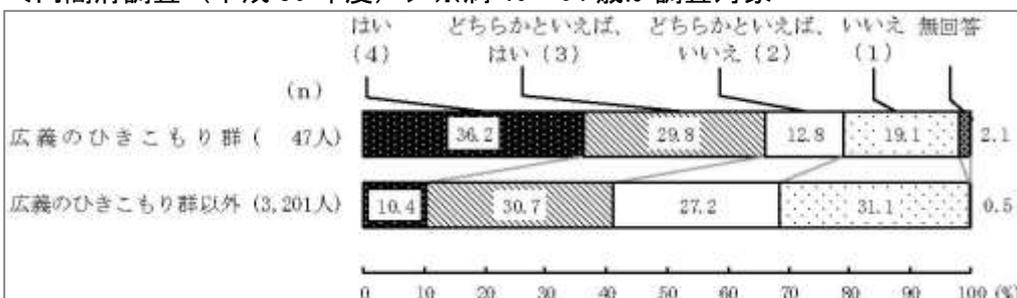
(12) 自分の今の状態について考えることがよくある

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が35.0%、「はい」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「はい」が、内閣府調査（平成27年度）では「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様に、「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた割合が高く、一般群と比べて今の状態に悩みを抱えている傾向にある。

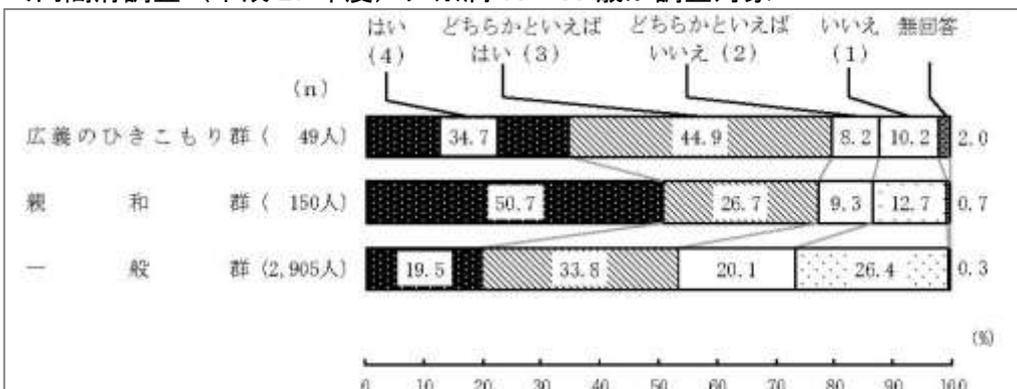
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象

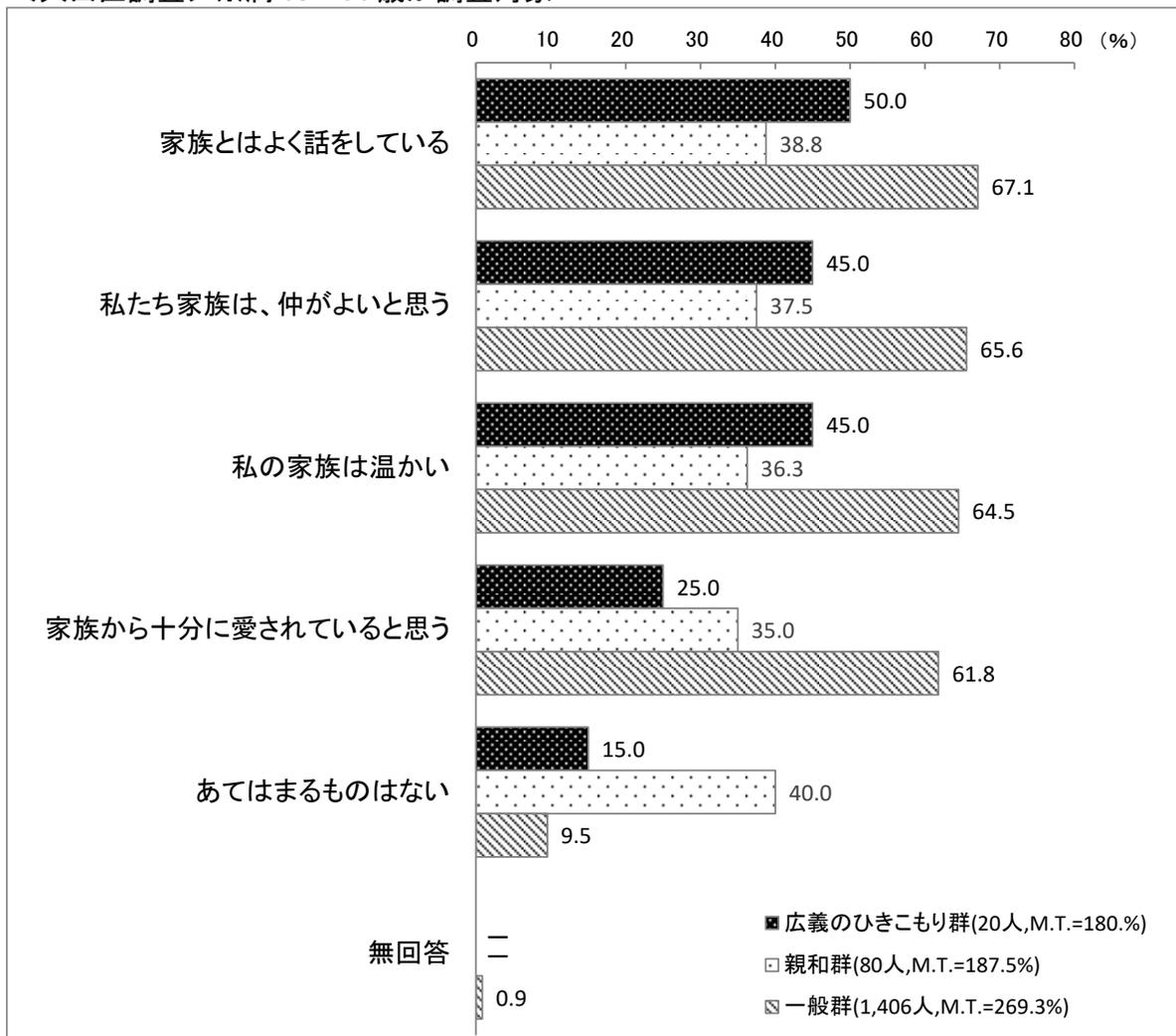


Q40(1)~(12)の結果をまとめると、大田区のひきこもり群は、自立した生活を送り、社会への関心を持ち、概ね整った生活リズムで過ごしていることがうかがえる。一方、信頼できる人が身近にいないと感じており、精神状態など今の自身の状態について考え、不安や悩みを抱えていることがうかがえる。

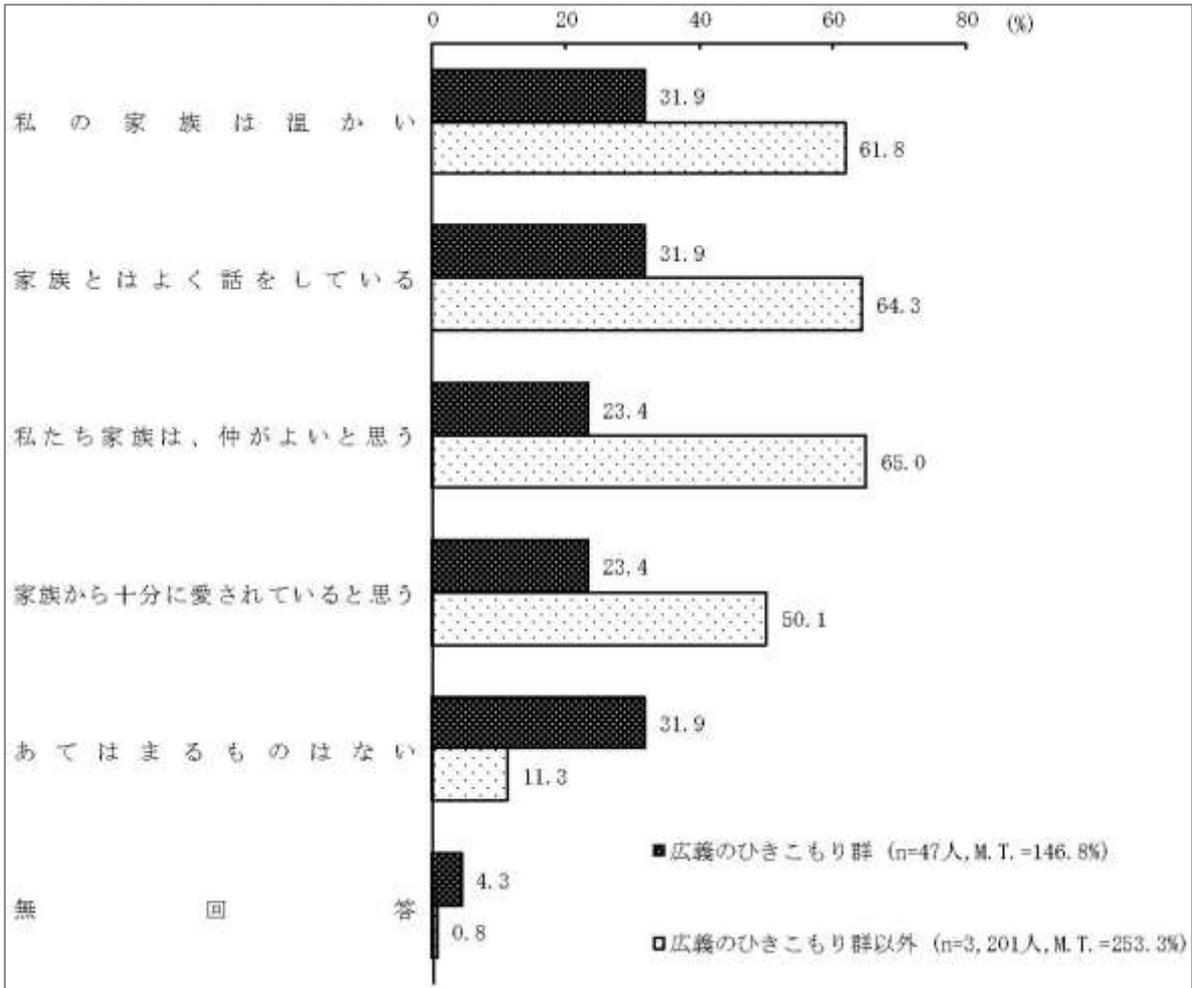
Q 4 1 次に挙げられたことの中で、あなたのご家族にあてはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答)

- 大田区のひきこもり群は「家族とはよく話をしている」が50.0%、「私たち家族は、仲がよいと思う」「私の家族は温かい」がそれぞれ45.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「私の家族は温かい」「家族とはよく話をしている」が上位となっている。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様の傾向にある。

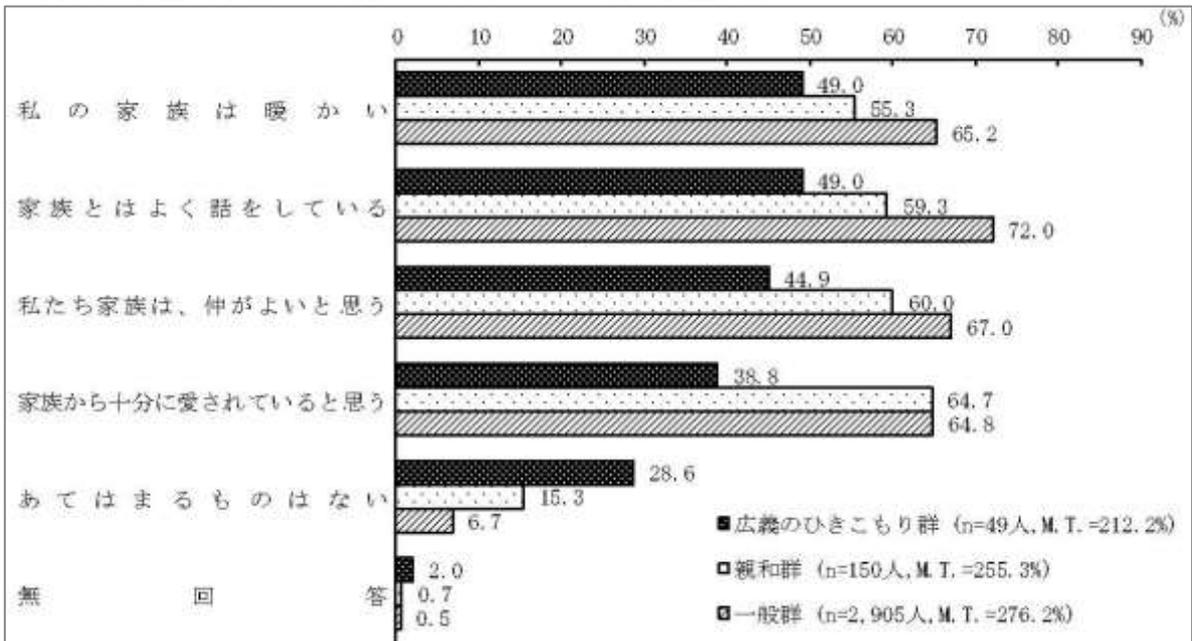
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

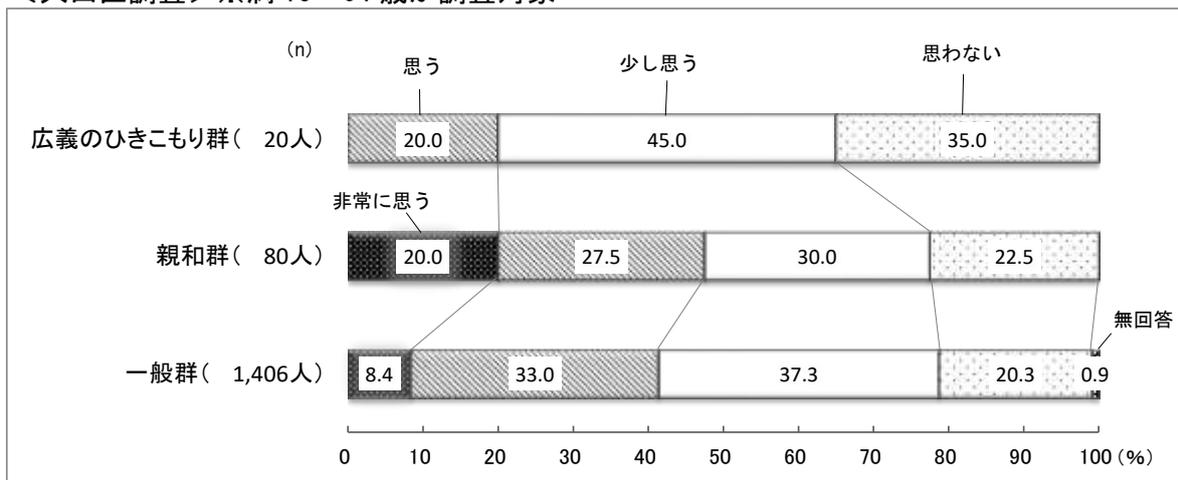


■ 悩みごとの相談について

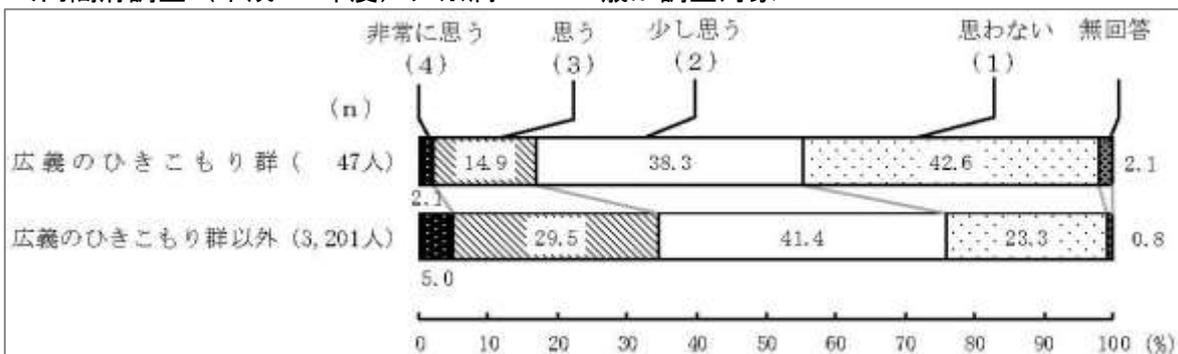
Q 4 2 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「少し思う」が45.0%、「思わない」が35.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「思わない」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて、「非常に思う」の回答はみられないものの、「思う」「少し思う」を合わせて6割以上を占めている。

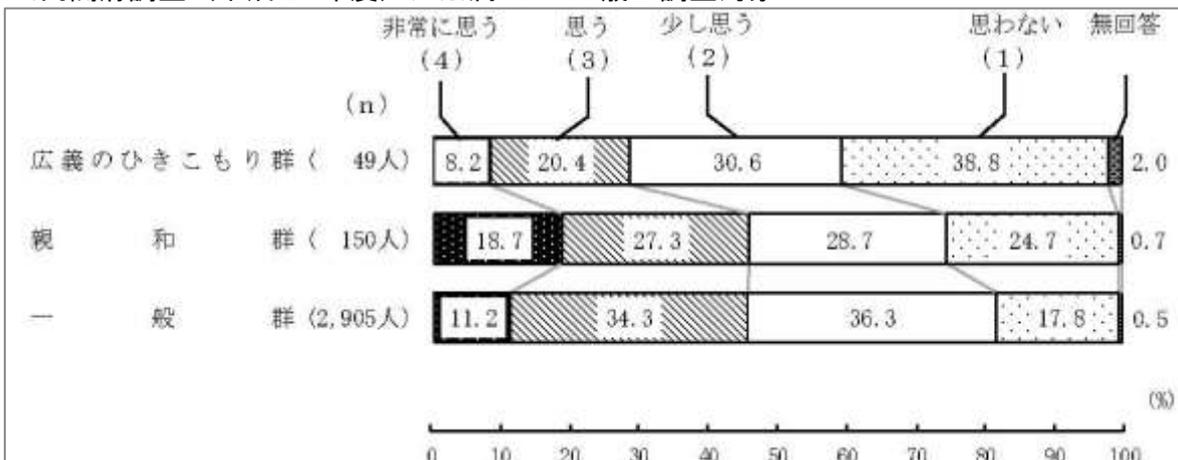
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



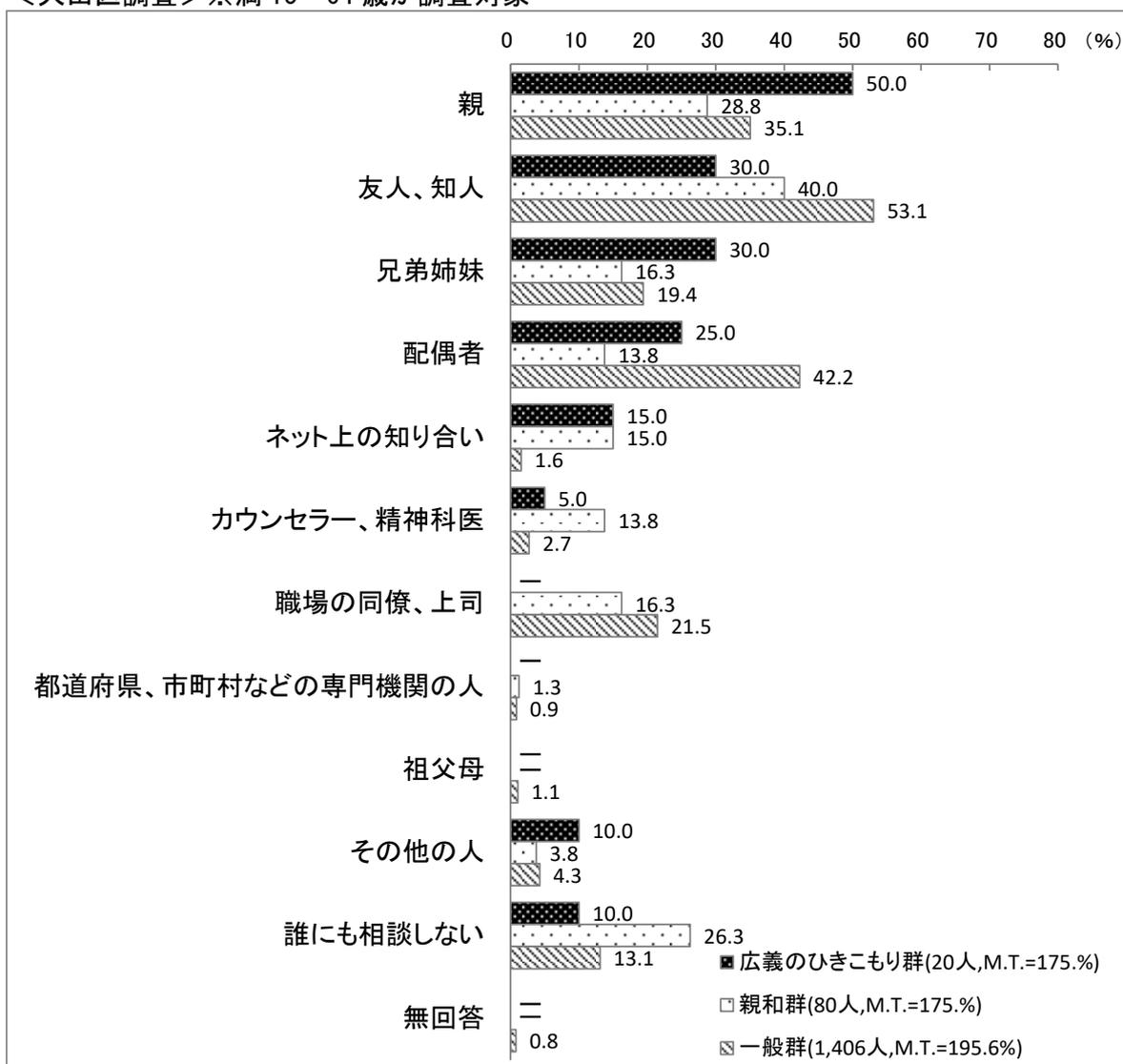
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



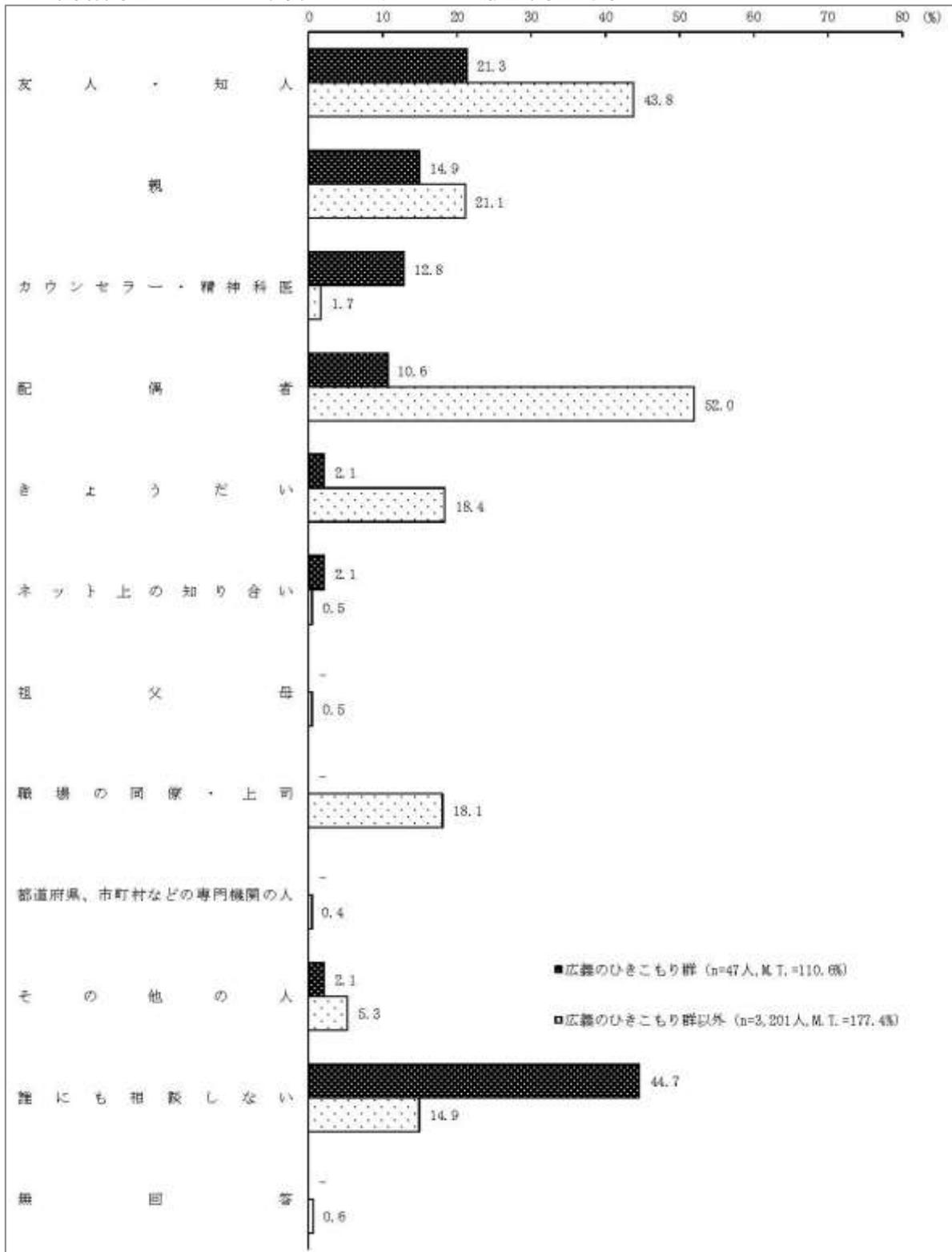
Q 4 3 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「親」が50.0%、「友人、知人」「兄弟姉妹」がそれぞれ30.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「友人・知人」「親」が上位となっている。
- ・大田区では、内閣府調査(平成30・27年度)と比べて大きな差はみられず、相談相手として「友人、知人」「親」など身近な相手の割合が高い。一方、「誰にも相談しない」との回答は少ない。

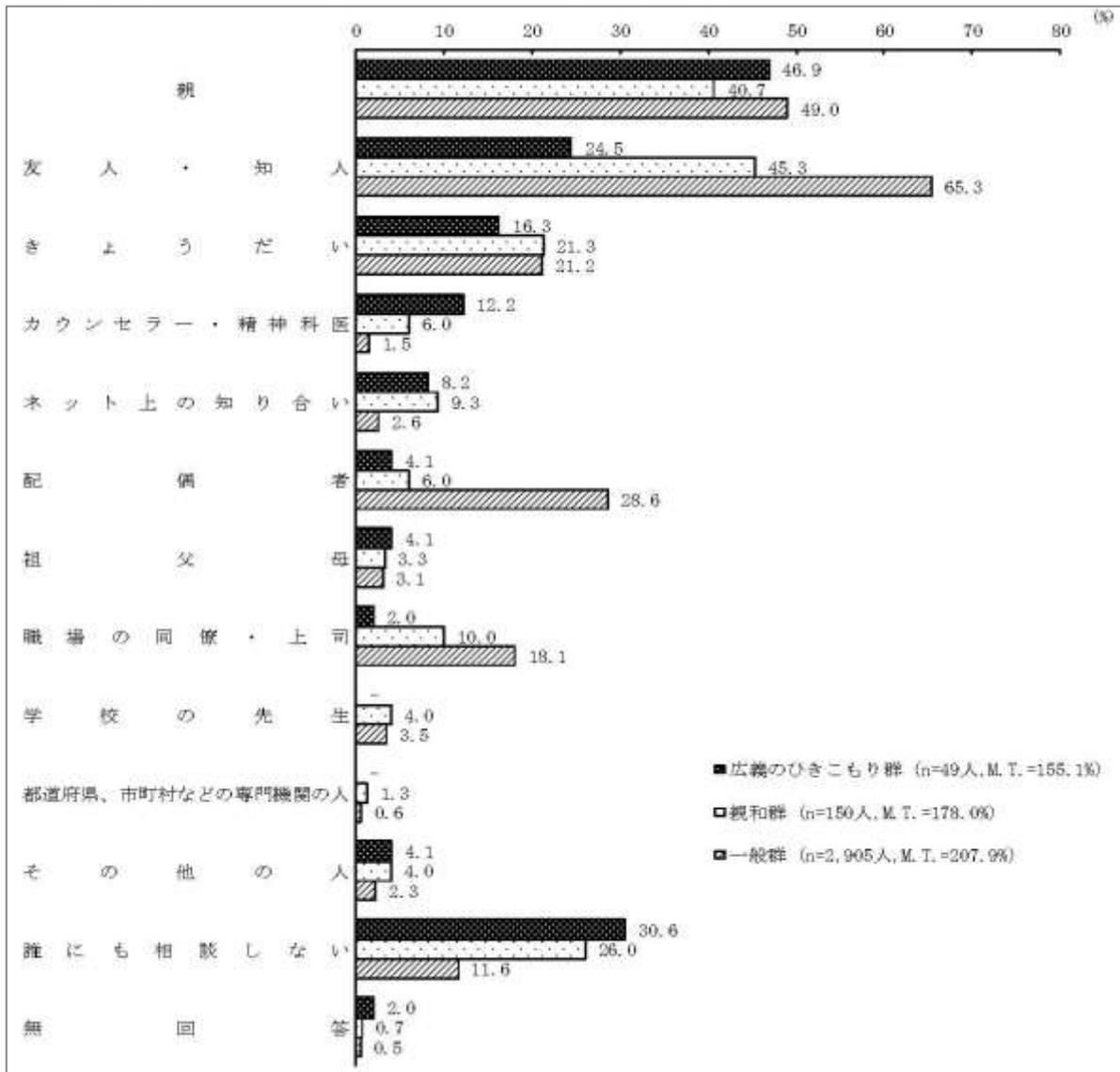
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

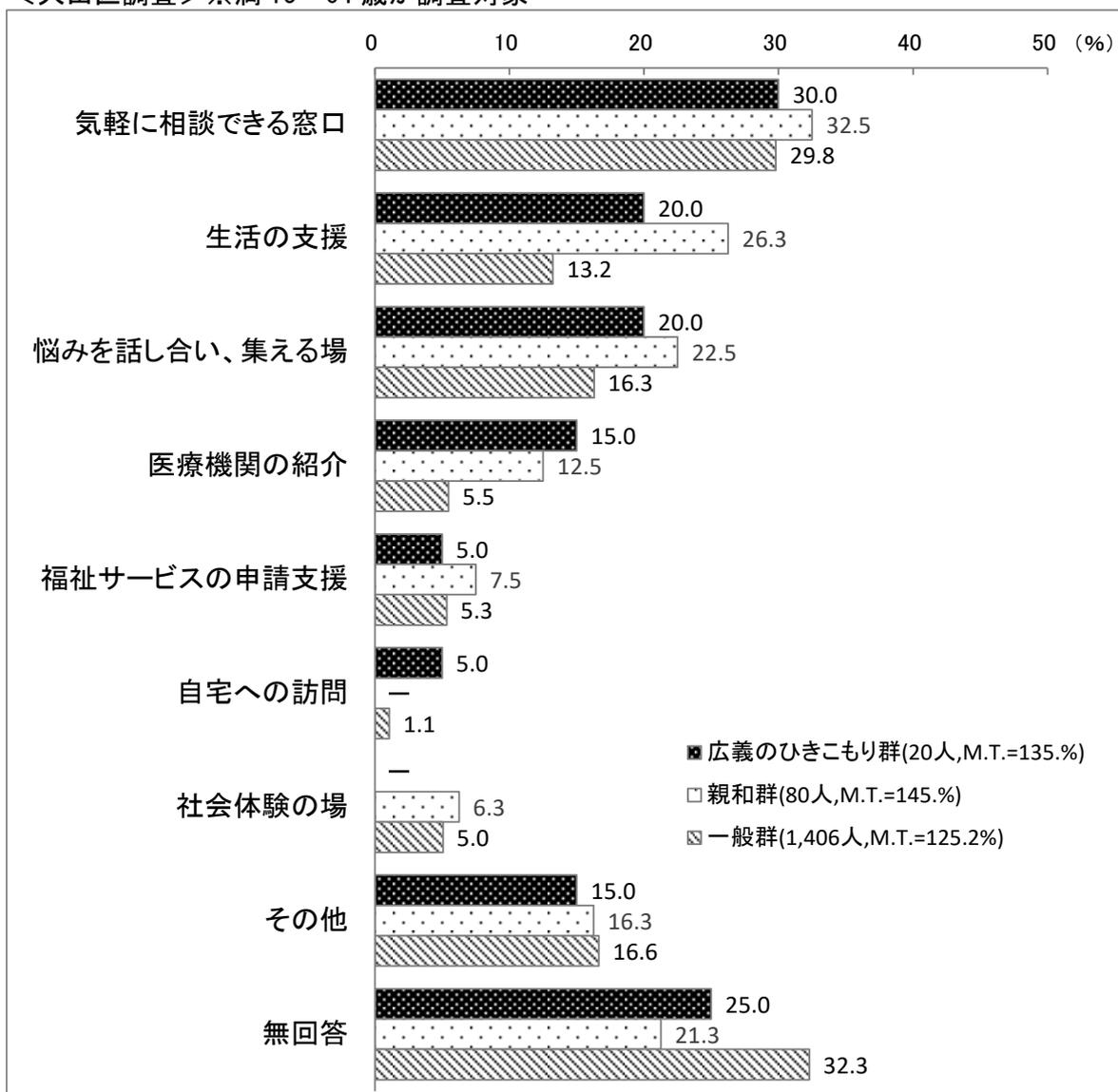


■ 必要な支援・あり方について

Q 4 4 現在の状態について、どのような支援が必要と感じますか。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「気軽に相談できる窓口」が 30.0%、「生活の支援」「悩みを話し合い、集える場」がそれぞれ 20.0%となっている。
- ・親和群や一般群でも同様の結果となっており、支援の中でも「気軽に相談できる窓口」の必要性を感じている割合が最も高い。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



Q 4 5 現在、大田区では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、自由にお書きください。

- 支援の必要性を感じている回答が多く、相談できる場の設置やオンラインなど当事者とその家族に直接届くような支援体制に関する回答が多かった。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象

記述概要	回答数
支援が必要である	63
相談やカウンセリングの実施	28
当事者同士のグループ活動、居場所づくり等の設置	25
専門的な支援の構築	23
訪問や声かけなどの見守り実施	22
オンライン支援	21
当事者第一の支援	20
情報・広報の充実	20
当事者の家族へのサポートや支援の実施	12
社会との関わりを作るための支援	11
当事者への就労支援	10
関係機関とのネットワークづくり	4
当事者への経済的な支援	3
その他	66
	328

■ 不安なことについて

Q 4 6 現在や将来のことについて、不安に思うことはありますか。ご自由にお書きください。

- ・経済面や生活面に関する不安が高かった。新型コロナウイルスに関連した不安も多く、調査時の社会情勢が影響したとうかがえる。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象

記述概要	回答数
お金 (生活資金、教育資金、社会保障費、税金等)	71
新型コロナウイルス (就職活動、収入減、ストレス、アフターコロナの生活等)	65
老後 (生活資金、年金、健康、孤立等)	49
仕事 (仕事・職場が合わない、転職、失業、やりたいことがわからない等)	41
家族 (親の介護、子どもの将来、夫婦間トラブル等)	28
健康 (病気、孤独死等)	28
行政 (待機児童問題、子育て支援、高齢者への介護支援等)	25
政治 (政治不信、格差社会、経済、税金、少子高齢化等)	22
生活 (自立、不安定な生活、信頼できる人がいない等)	22
制度 (年金、社会保障、ジェンダー不平等等)	21
恋愛・結婚 (独身、相手が見つからない等)	11
勉強 (卒業・合格できるか、進路等)	6
その他	109
	498